

## 第9章

# 次代へつなぐ 多様なニーズへの対応と経営改善

### 第1節

## 公共交通としての サービス向上

阪神・淡路大震災からの復興が進み、時代はネットワークを活用した利便性が求められるようになってきた。また、平成13（2001）年に米国で同時多発テロが起こり、平成23（2011）年に東日本大震災が発生。その他にも、地震や台風等による風水害が全国各地で頻発しており、自然災害に悩まされる時代となった。交通機関の安全に対する期待は一層高まり、事業者の危機管理に対する取組みの強化が求められるようになった。

### 1 キャッシュレス時代に向けた ICカードの導入

#### ■ ICカードシステムの導入

ICカードによる交通乗車は、平成13（2001）年に関東圏でJR東日本の「Suica」の取扱いが開始されたのが最初である。平成15（2003）年にはJR西日本の「ICOCA」、平成16（2004）年には阪急電鉄等で「PiTaPa」が導入され、関西圏でも徐々にICカードのエリア拡大が進むなか、神戸市交通局においてもICカードシ

テムの導入を検討していた。

導入するとなれば、地下鉄、バスを含め全機種の更新が必要となり、その更新費用が多額に及ぶため、厳しい経営状況のもと、なかなか導入に踏み切れなかった。

しかし、鉄道ネットワークの充実による利用促進と、乗客の利便性の向上を図るため、ICカード「PiTaPa」、「ICOCA」による乗車が可能となるようなシステムの整備を行い、駅務機器の更新時期にあわせて、平成18（2006）年10月より市営地下鉄においてICカードによる乗車サービスを開始した。

導入したサービスは、スルッとKANSAI協議会加盟事業者での利用及びJR西日本との相互利用を可能とするものである。一枚のICカードで神戸地域はもとより関西圏へと公共交通機関の利用可能エリアが広がった。

市バスについても、地下鉄と同様に車載機の更新時期にあわせて平成20（2008）年9月に同じシステムを導入した。

#### ■ ICカードサービスの変遷

平成18（2006）年10月にICカードシステム「PiTaPa」を、平成19（2007）年9月にIC定期サービス（「PiTaPa定期」）を導入して以来、以下のとおり交通系ICカードサービスの充実に取り組み、利便性向上を図ってきた。

・平成20年9月 市バスにICカードシステム

「PiTaPa」導入

- 市バスでも「PiTaPa」及び「ICOCA」の利用が可能となった。
- ・平成20年10月 敬老優待乗車証IC化運用開始  
→市内在住の満70歳以上の高齢者に交付される敬老優待乗車証をIC化した。
- ・平成25年3月 地下鉄にICカード全国相互利用サービス導入  
→地下鉄で「Suica」や「PASMO」などの全国相互利用のできる交通系ICカードの利用が可能となった。
- ・平成25年4月 福祉乗車証IC化運用開始  
→市内在住の障害のある人などに交付される福祉乗車証をIC化した。
- ・平成26年3月 市バスにIC定期サービス（「PiTaPa定期」）導入  
→地下鉄と同様、市バスでもIC定期サービスを導入し、「PiTaPa」での定期利用が可能となった。
- ・平成26年4月 ICカードによる市バス乗車割引制度を新設  
→「PiTaPa」や「ICOCA」などを利用し、1乗車目の降車から2乗車目の降車まで60分以内に連続して市バスを乗り継ぐ場合の割引を新設した。割引金額は210円（小児は110円）を上限とし、2乗車目が普通区の場合は無料となるような制度とした。



券面イメージ

## ■ 「ICOCA定期券」の発売等、さらなる交通系カードサービスの充実

これまで「PiTaPa」を中心に取り組んでいたICカードの普及・促進をより一層進めるため、平成29（2017）年4月15日より「ICOCA」及び「ICOCA定期券」の発売を開始した。

また、それに併せて、他社鉄道連絡IC定期券の発売範囲の拡大、市バス交通系ICカード全国相互利用サービスの開始など、さらなるICカードサービスの充実に努めた。

### 【参考】平成29年4月15日より新たに開始したICカードサービス

#### (1) 「ICOCA」及び「ICOCA定期券」の発売

##### ① 「ICOCA」の発売

（発売場所）地下鉄西神・山手線及び海岸線各駅窓口及び定期券発売所

（券種）大人・小児

※小児は定期券発売所のみで発売

##### ② 「ICOCA定期券」の発売

（発売区間）市バス全線及び地下鉄全線（連絡定期券を含む）

（発売箇所）定期券発売所及び各駅自動定期券発行機

※自動定期券発行機は継続定期券のみ発売

（券種）通勤（大人）定期券及び通学（大人・小児）定期券

それぞれ1か月、3か月、6か月。通学定期券については学期定期も発売

#### (2) 他社鉄道連絡IC定期券の発売範囲拡大

##### ① 「ICOCA定期券」（新規）

地下鉄自線内、市バス自線内

地下鉄－市バス 連絡、市バス－市バス 連絡

地下鉄－阪急 連絡（三宮、三宮花時計前接続）

地下鉄－阪神 連絡（三宮、三宮花時計前接続）

地下鉄－神鉄 連絡（湊川公園接続）

地下鉄－北神 連絡

地下鉄－北神－神鉄 連絡  
地下鉄－山陽 連絡（板宿接続）  
地下鉄－ポートライナー 連絡  
（三宮、三宮花時計前接続）

※市バスには山陽バス共用区も含む

- ② 「PiTaPa定期券」（連絡定期発売範囲拡大）  
地下鉄－阪急 連絡（三宮、三宮花時計前接続）  
地下鉄－阪神 連絡（三宮、三宮花時計前接続）  
地下鉄－神鉄 連絡（湊川公園接続）  
地下鉄－山陽 連絡（板宿接続）

(3) 市バスの交通系ICカード全国相互利用の開始

市バスで「Suica」や「PASMO」などの全国相互利用のできる交通系ICカードの利用が可能となった。

## 2 乗客の安全・安心に対する取組み

### ■ 新型インフルエンザ対策実施

平成21（2009）年4月末より、メキシコをはじめ海外で、新型の豚インフルエンザ（A/H1N1）の流行が始まり、メキシコ、アメリカで多数の死者が発生した。4月25日にWHOがヒトへの新しいインフルエンザの感染が確認されている段階である「フェーズ3」を宣言（4月27日フェーズ4、4月29日にフェーズ5へ引上げ）し、26日に「神戸市保健所健康危機管理連絡会議」を神戸市で開催、28日には神戸市新型インフルエンザ対策本部を神戸市で設置した。

その後も海外での感染は拡大し、5月16日には神戸市で国内第1号の新型インフルエンザ患者が報告され、神戸まつりの中止や市内学校園の休校措置などがとられた。

神戸市交通局では、新型インフルエンザの発生を受け、平成20（2008）年に策定した「神戸

市新型インフルエンザ対策実施計画」に基づく対策を実行した。具体的には、4月28日に交通局新型インフルエンザ対策本部員会議を設置し、公共交通機関の事業者は社会機能維持のため、できる限り運行を続けることが基本という原則にしたがい、職員に対してはマスクの着用、手洗いやうがい励行の指示、点呼時の入念な健康状態のチェックを行うなど感染予防策の徹底を図り、運行にかかわる乗務員等の健康管理に万全を期した。

同時に、お客様に対して、マスクの着用や不要不急の外出を控えること、うがい・手洗い及び咳エチケットの励行を駅構内での掲示や市バス・地下鉄の車内放送で呼びかけるなど、できる限りの対策を図った。

そのほかにも、資材の備蓄及び配備、外郭団体や営業所委託事業者に対する情報提供及び連携した対応、発熱相談センターへの応援出務なども行い、的確な初動対応を行った。

その後感染は次第に終息へ向かい、5月28日、矢田市長より「ひとまず安心」宣言が発表された。交通局では同日以降、順次車内アナウンスやポスター掲示等を取り止めた。情報集積、感染予防対策の指揮にあたってきた交通局新型インフルエンザ対策本部員会議の開催回数は、5月28日までに11回に及んだ。

平成21年10月、「神戸市交通局新型インフルエンザ対策行動計画」が策定され、新型インフルエンザ発生時の来客や職員に対する感染防止策や車両・施設の取扱い、職員への感染が拡大した際の欠勤率に応じた人員確保・運行計画が定められた。

平成23（2011）年9月、国において、より病原性の高い新型インフルエンザが発生しまん延する場合に備えるため、「新型インフルエンザ対策行動計画」が改定された。また、神戸市もこれにあわせて平成24（2012）年2月、「神戸市新型インフルエンザ対策実施計画」を改定した。

このような国計画・市計画の改定を受け、神戸市交通局においても、平成21年10月に策定した「神戸市交通局新型インフルエンザ対策行動計画」を改定した。

改定後の計画では、新型インフルエンザは発生時期や毒性を予測するのは困難で、取るべき対策も不確定要素が大きいと、実際の新型インフルエンザ発生時には、計画に定める対策の中から感染の状況に応じて選択実施するよう見直した。

## ■ 運輸安全マネジメントに関する取組み

平成17（2005）年4月のJR福知山線脱線事故等、当時の運輸分野における事故発生状況等を受けて、国土交通省は運輸事業者における輸送の安全確保の取組みの強化を図るため、道路運送法及び鉄道事業法を改正することにより、自動車事業、高速鉄道事業ともに、全職員が一丸となって運輸安全マネジメントを推進し、輸送の安全性の向上に努めることとされた。

神戸市交通局では、国土交通省の運輸安全マネジメントに基づき、平成18（2006）年10月に自動車事業、高速鉄道事業両部門において、安全管理規程を制定するとともに、「安全統括管理者」を選任し、輸送の安全に関する基本方針、重点目標、重点施策及び実施計画の策定を行い、安全管理体制の強化に取り組んでいる。

また、両事業とも安全管理規程や関連施策等の全職員への周知、内部監査の実施とその結果に基づく改善、乗客への啓発活動、ヒヤリ・ハットなどの「事故の芽」情報の収集と活用、取組状況のホームページでの公表（安全報告書）など、PDCAサイクルに沿った運輸安全マネジメントを行っている。

さらに、安全方針・目標・計画等を策定するとともに、経営管理部門と現場部門とのコミュニケーションを図る必要がある。このため、高速鉄道事業では安全管理推進委員会（月1回）・

安全対策室会議（月1回）を設置し、自動車事業では市バス安全管理推進委員会（年4回以上）、安全対策会議（月1回）を設置している。

このほか、神戸市交通局内に監査室を設置して内部監査を実施するなど、さらなる事故等の未然防止に取り組んでいる。

これらの運輸安全マネジメントの取組状況に関して、平成19（2007）年から、毎年1回（平成25（2013）・27（2015）～29（2017）年度は実施延長）、国土交通省大臣官房運輸安全監理官室により、運輸安全マネジメント評価が行われている。

## 【地下鉄の具体的な取組み】

- ①安全管理規程や重点目標・重点施策・実施計画の見直しと周知（2月～4月）
- ②安全対策室会議（毎月）で地下鉄全部署の安全情報を共有、事故防止対策、再発防止策、取組みの進捗状況等を報告、審議
- ③安全管理推進委員会（毎月）と見直し会議（4月）を開催
- ④運輸安全マネジメント内部監査の実施（3月）と指摘事項の改善
- ⑤関西鉄道協会主催の運輸安全マネジメント研修に参加、外部講師による高速鉄道部ヒューマンエラー防止研修・神戸市交通局安全講演会（年各1回）を実施
- ⑥局長や安全統括管理者の現地視察、安全統括管理者の巡視点検（年4回）、所属長等による各駅巡視（毎月）、他の事業者等との合同訓練を実施
- ⑦お客様への啓発等のため、ティッシュ配布（年4回）、ポスター掲出、アンケート（年1回）の実施、ホームページ（随時）によるお知らせ
- ⑧現場職員の定期教育訓練で各種実地訓練や机上研修を実施、アンケートにより「事故の芽」情報や安全に関する意見を集約

- ⑨高速運輸連絡会議、班長会議等でお客様からの苦情・要望及び安全対策室会議での報告事項等を毎月現場職員へフィードバック、報告書月報（事故、トラブル等）を現場の職場へ配付

### 【市バスの具体的な取組み】

- ①安全管理推進委員会（年4回）と見直し会議（年1回・3月）を開催
- ②安全対策会議で安全情報を共有、事故防止対策、取組みの進捗状況等を報告（毎月）
- ③局長や安全統括管理者の現地視察、安全統括管理者の巡視点検
- ④事故防止研究会の開催（事故原因やヒヤリ・ハット情報の分析）
- ⑤運輸安全マネジメント内部監査の実施（2・3月）と指摘事項の改善
- ⑥安全運転強化月間の取組み（平成14（2002）年の死亡事故を教訓に毎年8月20日から9月19日の間実施）
- ⑦厳正な点呼の実施（運転者の健康状態の把握と検知器によるアルコールチェック）
- ⑧管理職立番、添乗調査の実施（年4回実施）
- ⑨乗務員研修の実施（全乗務員対象、3年に一度適性診断を受診、平成28（2016）年度から新たなメニューで実施）
- ⑩ドライブレコーダーの導入（平成24（2012）年度全車両に装備）
- ⑪安全だよりの発行
- ⑫神戸市交通局安全講演会（年1回）に参加

## 3 乗客に親しまれる バス・地下鉄を目指して

### ■市営交通友の会

市営交通の日と定めた平成11（1999）年8月1日に、「神戸の市バス・地下鉄を愛し、その

発展を願う方々にご参加いただき、市営交通への理解を深めていただくとともに、会員相互の交流と親睦を図ること」を目的に市営交通友の会を設立した。

会員向けのイベントや、神戸市交通局のお仕事内容などの情報を掲載している会報紙を発行している（平成29（2017）年7月末現在で39号）。

また、地下鉄の車両を製造している川崎重工業株式会社 兵庫工場の見学会など、会員限定のイベントを実施している。過去には会員数が約1,500名を超える時期があったが、現在の会員数（18期：平成29年8月1日～平成30（2018）年7月31日）は約200名となっている。令和元（2019）年8月1日に設立20年目となる。

### ■イメージキャラクター 「ゆうちゃん・ばっしーくん」

「ばっしーくん」は平成12（2000）年4月に、市バスのイメージキャラクターとして認定された。市営地下鉄西神・山手線の愛称“みどりのUライン”などから命名された「ゆうちゃん」は、平成13（2001）年7月に市営地下鉄のイメージキャラクターに認定された。各種のイベントなどで活躍している。

#### 《プロフィール》

名前：ばっしー君

所属：神戸市交通局営業推進課

お仕事：市バスのイメージキャラクター

各種イベントでのPR活動

性格・趣味など：男の子、やんちゃでおちゃめ。趣味はいろいろなお友達と遊ぶこと。

自己PR：平成9（1997）年9月に、市バス走行環境改善キャンペーンのイメージキャラクターとしてデビューしました。



みんなへのひとこと：

『これからも僕（市バス）に乗ってね！』

### 《プロフィール》

名前：ゆうちゃん

所属：神戸市交通局営業推進課

お仕事：市営地下鉄イメージキャラクター

市営地下鉄のイメージアップを図り、お客様に親しみをもってご利用いただくこと

性格・趣味など：男の子、恥ずかしがりや(時々表に出て遊びます)。

趣味はどうくつ探検。

自己PR：平成13年7月に、市営地下鉄のイメージアップキャラクターとして、地下鉄海岸線開業と共にデビューしました。

みんなへのひとこと：

『恥ずかしがりやだから、会いに来てね！』



## 4 地域とともに発展をめざす取り組み

### ■ 映画撮影への協力

神戸市交通局では、映画やドラマ、各種出版物など多くの媒体で、バスや地下鉄の車両などを利用した取材・撮影の申し込みがあったときは積極的に協力をしている。平成12(2000)年に神戸フィルムオフィスが設立された後は、フィルムオフィスを通じての依頼が増え、神戸市交通局の良いアピールの機会となっている。

### ◆ 近年の主な実績

#### (1) 交渉人 真下正義

(本広克行監督 平成16(2004)年撮影、平成17(2005)年公開)

大ヒット作「踊る大捜査線」のスピノフ作品として製作。最新型の地下鉄車両クモハE4-6000が、ハッカーの遠隔操作により首都圏の地下鉄網を縦横無尽に暴走するというストーリーで、神戸市交通局では2週間にわたり地下鉄が登場する各シーンの撮影を行った。

また、地下鉄を舞台とした作品であり、現役の地下鉄関係者として各種専門機器・専門用語の使い方・使われるタイミングや指令室での動き等を指導するため、神戸市交通局から東京のスタジオへ職員を派遣するなど、様々な面で協力を行った。

撮影場所：西神・山手線（本線、上沢駅、県庁前駅、三宮駅）、海岸線（御崎公園駅、御崎車両基地）

#### (2) 紙の月

(吉田大八監督 平成25(2013)年撮影、平成26(2014)年公開)

直木賞作家・角田光代氏が第25回柴田錬三郎賞を受賞した原作小説の映画化。主人公が年下の青年と心を通わせるシーンや電車を待つシーンなどで、朝・夕ラッシュ時間帯や早朝・深夜に西神・山手線や名谷車両基地を使用して撮影された。神戸市営地下鉄のほかにも、そごう西神店や旧居留地、神戸市役所1号館など市内各所で撮影が行われている。

撮影場所：西神・山手線（本線、長田駅、県庁前駅、西神中央駅、名谷車両基地）

#### (3) その他主な協力案件

##### ◆ 映画

「GO」(行定 勲監督 平成13(2001)年撮影、公開)

**撮影場所：**上沢駅

「Run 2U」(カン・ジョンス監督 平成13年撮影、平成15(2003)年公開)

**撮影場所：**新神戸駅

「ゴジラ FINAL WARS」(北村龍平監督 平成16(2004)年撮影、公開)

**撮影場所：**御崎車両基地

「ふたたび swing me again」(塩屋 俊監督 平成21(2009)年撮影、平成22(2010)年公開)

**撮影場所：**脇の浜住宅西停留所、東遊園地前停留所

「少年H」(降旗康男監督 平成24(2012)年撮影、平成25(2013)年公開)

**撮影場所：**名谷車両基地(市電庫)

#### ◆ドラマ

「アイム ホーム 遥かなる家路」(平成16年撮影、公開 放送局：NHK)

**撮影場所：**大倉山駅

「蹴鞠師」(平成18(2006)年撮影、公開 放送局：関西テレビ)

**撮影場所：**新神戸駅

### ■ノエビアスタジアム神戸 利用促進事業

ノエビアスタジアム神戸へのアクセス手段として、地下鉄海岸線の利便性はきわめて高い。このため、地下鉄海岸線の利用者増に繋がるノエビアスタジアム神戸の活用のため、「ノエビアスタジアム利用促進事業」を平成24(2012)年度から実施している。同スタジアムの施設使用料の減額や一定の広報協力を神戸市交通局と神戸ウイングスタジアム株式会社で行うことにより、スタジアムの利用促進と地下鉄海岸線の乗客増を図っている。

天然芝部分を使用できない制約があるなか、神戸市交通局と神戸ウイングスタジアム株式会社が連携し、以下のとおり様々なイベントを実

施した。

#### ◆実績

平成25年10月6日(日) ウイングフード祭り  
(集客：約1,000人) ※演歌祭りと同様開催。

平成25年11月4日(月・祝) リレーマラソン  
(集客：約100人)

平成25年12月21日(土) リレーマラソン  
(集客：約400人)

平成26年3月21日(金・祝)  
中央卸売市場即売会(集客：約7,000人)  
※ウイング健康フェスタと同様開催

平成26年6月15日(日)  
W杯パブリックビューイング  
(VS.コートジボワール)  
(集客実績：約12,000名)

平成26年7月21日(月・祝) リレーマラソン  
(集客実績：約700人)

平成26年9月15日(月・祝) リレーマラソン  
(集客実績：約650人)

平成26年11月8日(土) リレーマラソン  
(集客実績：約450人)

平成26年12月20日(土) リレーマラソン  
(集客実績：約550人)

平成27年1月17日(土)  
阪神・淡路大震災20年1.17チャリティーマッチ  
(集客実績：約24,000人)

平成27年1月18日(日)  
出張！なんでも鑑定団 in 神戸  
(集客実績：約10,000人)

平成28年7月16日(土) マラソンレース  
(集客実績：約700人)

平成28年9月11日(日) マラソンレース  
(集客実績：約600人)

平成28年11月27日(日) マラソンレース  
(集客実績：約400人)

平成28年8月9～21日 ご当地グルメ合戦  
(集客実績：約6,660人)

平成28年10月23日（日）  
第2回ウイング歌謡ショー  
（集客実績：約4,000人）

平成29年5月14日（日） マラソンレース  
（集客実績：約450人）

平成29年7月17日（月・祝） マラソンレース  
（集客実績：約720人）

平成29年9月10日（日） マラソンレース  
（集客実績：約380人）

平成29年11月5日（日） マラソンレース  
（集客実績：約390人）

平成29年5月6日（土） 第9回ウイング寄席  
（集客実績：約4,000人）

平成29年6月18日（日） 全国地酒試飲大会  
（集客実績：約1,680人）

平成29年10月9日（月・祝）  
第3回ウイング歌謡ショー  
（集客実績：約8,000人）

平成29年10月15日（日）  
ウイングスポーツチャレンジパーク  
（集客実績：約3,000人）

## 5 乗車券メニューの拡充

### ■エコファミリー・ エコショッピング制度

都市部での渋滞を緩和して市バス運行の定時性を改善するとともに、地球環境への負荷の軽減を図るため、マイカー利用から公共交通への転換を図る動機付けの施策として、土、日、祝日とお盆休み（平成22（2010）年度からは夏休みに拡充）・年末年始に、大人1人につき小学生以下2人まで市バス・地下鉄に無料で乗車できる「エコファミリー制度」を平成17（2005）年10月から本格導入している。この制度は、他都市にはほとんど例を見ない取組みであり、平

成15（2003）年10月からの社会実験を経て、本格実施をしたものである。社会実験の期間も含めて、平成28（2016）年度末までの利用者は約1,437万人となっている。

一方、市バス・地下鉄を利用して、提携店や施設での催し等に出かけた方に割引などのサービスを提供する「エコショッピング制度」についても、平成17年度から実施しており、平成28年度末までに約5万5千人にご利用いただいている。

### ■KANSAI ONE PASS

関西への訪日外国人旅行者の受入れ環境整備の一環として、訪日外国人旅行者向けに販売されているJR西日本の「ICOCA」をベースとしたチャージ式交通ICカード。平成28（2016）年4月からの試験販売を経て、平成29（2017）年度は1枚2,000円（デポジット500円）で本格実施された。

西日本旅客鉄道、阪神電気鉄道、阪急電鉄、京阪電気鉄道、近畿日本鉄道、南海電気鉄道、大阪市交通局、京都市交通局、神戸市交通局の関西の鉄道9社局、関西経済連合会及び関西国際観光推進本部が参画し、関西空港駅及び京阪神の各社局主要駅を中心に19か所で販売されており、神戸市交通局では、三宮駅の市バス・地下鉄お客様サービスコーナーで販売している。

訪日外国人旅行者の回遊性の向上、消費意欲の喚起、及び観光情報の発信強化を図ることを目的としており、「ICOCA」エリアや「PiTaPa」エリアなど、「ICOCA」利用可能エリアの鉄道・バスを1枚のカードで周遊できる。

カードを提示すると、関西国際空港内の店舗を含めたショッピング施設や観光スポットで優待特典を受けることができる。

カード販売時に、関西広域の鉄道路線マップ付き利用ガイドを配付しており、利用ガイドには、専用のモバイルサイトに誘導する二次元バ



ーコードを掲載している。また、専用モバイルサイト（<http://kansaionepass.com>）ではカードの利用方法、優待特典情報（150か所）及び関西の観光情報（300か所）を紹介している。

専用のモバイルサイト及び鉄道路線マップ付き利用ガイドは、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語の4言語に対応している。

### ■各種企画乗車券の販売

神戸市交通局では地下鉄1日乗車券、市バス・地下鉄1日乗車券などのお得な乗車券をはじめ、ゴールデンウィークフリーチケットや年末年始3dayチケットのような期間限定で利用できる乗車券など、多様な企画乗車券を取り扱っている。特に近隣の交通事業者等と企画・作成している有馬・六甲周遊パスなど、特定施設での優待サービスが付加されている乗車券は、国内外の観光客から好評をいただいている。また、神戸街めぐり1dayクーポンは、三宮を中心とした神戸市内の観光に便利な街遊券が付いており、海外や他府県から訪れる観光客に人気が高い企画乗車券となっている。

## 6 その他の取組み

### ■東日本大震災に対する神戸市交通局からの支援

平成23（2011）年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波によって、東北地方の太平洋沿岸部は甚大な被害を受けた。

神戸市は、災害時応援協定を結んでいる仙台市等に、消防関係、医療関係、避難所運営、ボランティア関係等への職員派遣、緊急支援物資の提供、見舞金等の物的支援等を行った。神戸市交通局では、避難所運営、仮設住宅関係、各

種給付金申請受付関係、被害家屋調査等の業務等を行う職員延べ19人を派遣し、応援出務を行った。

### ■神戸市交通局公済会の解散

神戸市交通局公済会は昭和24（1949）年7月に「社団法人神戸市電公済会」として発足し、市電の廃止を控えた昭和45（1970）年8月には名称を「社団法人神戸市交通局公済会」に変更して、乗車券の販売やバス・地下鉄車両の清掃、駅構内営業といった様々な事業を行っていた。同じく神戸市交通局の外郭団体である神戸交通振興株式会社は、各種受託事業とともに駅ビル経営事業、売店事業やバス運輸事業などを行い、お客様サービスの向上と、神戸市交通事業の経営基盤の安定化を目的とした事業を実施している。

神戸市交通局では利用者減に伴い交通事業の経営状況が非常に厳しい局面を迎え、抜本的な経営改革が必要となっていた。平成15（2003）年に「神戸市交通局新たな経営計画」を策定するなど経営改善に取り組む中で、公済会・交通振興を含めて、お客様サービスの向上の観点、業務内容・採算面から精査を行い、効率化への検討が行われた。

公済会においては、収益事業が事業の大部分を占めており、また、両団体が実施している事業の中には、駅構内営業や駅売店事業、保険代理事業や駐車場事業など同種あるいは類似したものがあつた。

このような状況を踏まえ、公済会と神戸交通振興の類似事業を統合、効率的に事業を展開することで、よりよいサービス提供を図るとともに、経営基盤の強化を図るため、平成16（2004）年4月1日をもって公済会を解散し、事業を交通振興に移管した。

神戸交通振興と神戸市交通局公済会は、それぞれ株式会社と社団法人であるため、法人とし

での位置づけが異なり、法的に合併は不可能であった。そのため形式的には公済会の解散、その実施事業の交通振興への移管という形をとった。公済会の職員は解散日をもって全員解雇となり、4月1日に交通振興で雇用するとともに、公済会で保有の資産は交通振興に引き継がれた。これにより交通振興の営業規模は倍増、社員数は3倍を超える陣容となり、交通振興が神戸市交通局唯一の外郭団体となった。

平成16年4月に、交通振興に移管されたのは以下の11事業である。

- ・市バス及び市営高速鉄道事業の車両・駅舎・営業所清掃
- ・駅掌業務
- ・市バス運行・運転業務
- ・売店業務など高速鉄道駅構内営業事業
- ・コンビニ事業
- ・パーティ事業
- ・広告事業
- ・乗車券事業
- ・駐車場経営事業の一部
- ・自転車駐輪場事業
- ・保険事業の一部

## ■須磨浦荘の営業終了

**所在地** 神戸市須磨区須磨浦通2丁目2番40号

**構造・規模** 鉄骨造 地上2階

**敷地** 1,395.10㎡

**建物** 981.44㎡

須磨浦荘は、神戸市交通局共助組合の保養施設として、昭和54（1979）年6月1日に業務を開始した。30人収容の大広間、40人収容の大会議室、20人収容の小会議室、客室5室から構成されていた。須磨浦荘は、須磨海水浴場に面している好立地であることから、夏季には「海の家」としても大いに利用された。

しかし、福利厚生事業の見直しのため平成21（2009）年度に神戸市交通局共助組合が市職員

共助組合に一元化されたことに伴い、平成22（2010）年3月31日をもって営業を終了した。

## ■消費税率引き上げに伴う市バス・地下鉄料金改定

平成26（2014）年4月に、消費税率が5%から8%へ引き上げられた。

消費税は、消費一般に広く負担を求める税であり、最終的には消費者が負担すべき性格のものであることから、国土交通省から示された処理方針に沿って、税率の改定に合わせて市バス及び地下鉄の料金に消費税率を転嫁する料金改定を実施した。

その結果、普通料金については、市バスの普通区料金を200円から210円に、地下鉄の初乗り料金を200円から210円とした。定期料金については、地下鉄は値上げとした一方、市バス普通区については据え置きとした。

## 第2節 自動車事業

### ① 人にやさしいバスへの取組み

#### ■全車両をバリアフリー化

神戸市交通局ではすべての乗客にとって乗降しやすいバスとするため、低床で車いすの方がそのまま乗り降りできるノンステップバスを平成10（1998）年度に試験的に導入した。その結果、以降も継続して導入し、平成12（2000）年に交通バリアフリー法<sup>\*</sup>が施行されたことから、平成13（2001）年度以降は導入するすべての車両を、交通バリアフリー法に適合したノンステップバスまたはワンステップバスとした。

平成17（2005）年度の「神戸市交通バリアフリー基本構想」に係る「公共交通特定事業計画」

## バリアフリー適合車両



車いす用スペース



低床で幅広い乗降口

では、平成22（2010）年度末に交通バリアフリー適合車を約80%としていたところ、結果は87%と目標を達成。その後、平成23年度の「神戸市交通バリアフリー基本構想検証等実施報告書」などで、すべての車両を交通バリアフリー適合車とする提言を行い、ノンステップバス等の導入を進めた結果、平成24（2012）年度末に交通バリアフリー法適合車が100%となった。

※「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移転円滑化の促進に関する法律」…高齢者や身体障害者をはじめとするすべての利用者にとって公共交通機関を利用する際の身体の負担を軽減することにより、その移動の利便性及び安全性を向上させることを目的とした法律

### ■ふるさと納税制度を活用した「ハートフルベンチ」事業の実施

バス停でより快適にバスをお待ちいただけるよう、設置基準を満たしているバス停には上屋やベンチの設置を進めると同時に、老朽化等により修繕が必要な箇所について順次補修を行っている。

ベンチについては、税制上の優遇措置のあるふるさと納税制度を活用した「ハートフルベンチ」事業を実施している。1口5,000円単位で寄付を受け付け、10口50,000円の寄付をいただ

いた場合、ベンチを1基設置するとともに、ご希望によりベンチや神戸市交通局のホームページに寄付者名を掲載している。

上屋については、民間の広告付き上屋事業者と上屋整備に関する契約を締結する等、都心部における景観を統一する観点にも配慮しながらリニューアルを図っている。



ネームプレート  
(電話番号は当時のもの)



ハートフルベンチ  
(平成28（2016）年当時)

### ■市バス福祉体験授業

市バスを神戸市内の小学校の校庭などに乗り入れ、小学生（4年生対象）に福祉について学んでいただく「市バス福祉体験授業」を行っている。ノンステップバスの外観や特徴を知ってもらいながら、車いすや高齢者疑似体験装具を使用して、乗車体験や介助体験をしてもらうものである。市バスの運転士や整備に従事している職員が講師を務め、日頃の経験などを基に、小学生に理解しやすく楽しみながら学べるよう、授業内容を工夫している。

さらに、交通事故防止の観点から、運転士か



高齢者体験



車いす体験

ら見た死角の説明など、安全啓発も行っている。  
平成11（1999）年度から始めたこの授業は、平成29（2017）年度までの19年間で、のべ217校、約14,260名の児童に利用されている。

## 2 より利用しやすい乗客サービスの取組み

### ■市バス乗継割引制度の導入

これまで、路線延長が長い路線の分割、ターミナルへの短絡などバス路線の再編を通して、定時性の向上や効率化を図ってきた。その結果、目的地によっては複数のバスを乗り継いでいたかなければならないケースが生じる。そこで、乗継による運賃の負担感を軽減することにより、利用増進とICカードの利用促進を図るため、平成26（2014）年4月より市バス乗継割引制度を導入した。ICカード利用者を対象に一定時間内に市バス→市バスを乗り継いだ場合、2乗車目以降の運賃を自動的に割引するものである。概要は次のとおり。

#### (1) 対象カード

PiTaPaカード・敬老ICパス・ICOCA

#### (2) 適用条件

##### ・制限時間

1乗車目の降車から60分以内の降車まで

##### ・乗継系統制限

設けない

#### ・割引額

一般利用上限210円割引、敬老バス利用は上限110円割引

#### (3) 実施時期 平成26（2014）年4月1日

#### (4) その他

ICカードによる実施に伴い、乗継割引専用カードは廃止する。

### ■バスロケーションシステムの導入

平成28（2016）年2月から5月まで、市バス66系統を走行するバスを用いて実証実験を行った結果、システムの有用性を十分に確認できたことから、平成29（2017）年4月1日より市バス全路線・全車両で新たなバスロケーションシステムのサービスを開始している。システムの概要は次のとおり。

#### (1) 利用者向けバスロケーションシステム

画面はウェブページ形式で提供され、スマー



利用者向けバスロケーションシステム

トフォンやパソコンから閲覧できる。バス停の名称や系統番号を指定することで、該当するバスが今どこを走行しているか、バス停にあと何分で到着するのかを表示する。

## (2) 営業所向け管理システム

各営業所のPCから確認することができ、運行中の車両の位置情報を地図上にバスのアイコンで表示する。系統や行先、車両番号の確認を容易に把握できるようになった。

## (3) 無線通信システム

それまで無線を導入していなかった営業所（魚崎・落合・西神）においても、バスロケーションシステムの導入により、その通信機能を利用した無線通信が可能となった。

今後、バスロケーションシステムの機器が持つ通信機能等を活用し、一部の路線において市バス車両にデジタルサイネージを設置するな

ど、利用者・市民へのさらなる情報発信、機能の実証実験を行う予定である。

## ■ 直行便の運行

これまで、駅のバスターミナルにおいては、朝のラッシュ時に、学生と通勤者等の利用が混在し、長蛇の列をなすなど非常に混雑している状況であった。そのため、平成29（2017）年4月より高校や大学まで直行便の運行を開始した。これにより学生の利便性が向上するとともに、通常便に乗車する学生が減ることで混雑緩和を図ることができ、通勤者の利便性も向上させることができた。その後、平成30（2018）年4月に直行便路線の拡充を行うなど、さらなる利便向上を図っている。

直行便の内容については以下のとおりである。

### (1) 平成29（2017）年4月からの実施内容

#### ・53系統

舞子駅前から神戸国際大学附属高校まで。共同運行路線のため、神戸市バス2便、山陽バス2便の合計4便（朝のみ）を運行

#### ・47系統

西神南駅前からいぶき明生支援学校まで。平成29年4月に西区井吹台西町に新たに開校した同校に自力通学する生徒の登下校時間にあわせて1往復運行

#### ・16系統

JR六甲道から神戸国際文化学研究所前まで。神戸大学への通学時間にあわせて2便運行

#### ・75系統

須磨駅前から高倉台南口まで。神戸女子大学への通学時間にあわせて2便運行（平成29年5月29日からは1便）

なお、神戸女子大学の寮が「西須磨小学校前」近くにあり、「西須磨小学校前」で乗り切れない場合があることから1便を通常便の増便に変更



営業所向け管理システム



無線通信システム

## (2) 平成30 (2018) 年 4 月からの実施内容

### ・ 2 系統・18 系統

混雑緩和及び沿線にある高校等の需要に対応するため、登校時間に合わせて、停車するバス停を学生の利用が多いバス停に限定して、三宮から摩耶ケーブル下まで運行(1日3便)  
(三宮駅ターミナル前-地下鉄三宮駅前-布引-青谷-神戸高校前-摩耶ケーブル下)  
(沿線高校等:神戸龍谷中学校高等学校、松蔭中学校高等学校、神戸海星女子学院、神戸高校)

### ・ 72 系統

神戸女子大学の学生の需要に対応するため、下校時間に合わせて、大学構内から須磨駅前までの直行便を運行(1日2便)

### ・ 39 系統

神大附属中等教育学校の需要に対応するため、登校時間に合わせて、JR住吉駅から学校までの直行便を運行(1日6便)。

なお、現在阪急御影駅から利用する生徒のため、19系統において深田池から学校までの便を運行していたが、これについても増便(1日2便→6便)

### ・ 16 系統

平成29(2017)年度より運行しているJR六甲道から神戸大学への直行便を運行の効率化及び利用者の利便性向上を図るため、運行経路を変更するとともに、大学の協力により大学構内まで延伸する(1日3便、ただし金曜日1便)。

また、阪急六甲からも大学構内への直行便を新たに運行(1日2便、ただし金曜日1便)

## 3 乗客サービス向上とPR事業

### ■ 市バス開業70周年 路線再編成を実施

経営健全化計画の中でも、緊急の課題として、市バス路線の見直しに関し、平成11(1999)年11月に「市バス路線再編成計画」を策定した。この計画では、平成13(2001)年7月の地下鉄海岸線開業時までの間を実施期間として、市バス全79路線のうち、延長1路線、変更6路線、短絡9路線、統廃合2路線、廃止6路線、再編成による増減便17路線の計41路線を見直した。一方、これまで市民からの要望が多かったもののうち、乗客需要の見込める5路線を新設した。

### ■ 大学との連携によるPRの取組み

大学との連携事業「大学生が企画する市バス旅企画PR事業」を平成25(2013)年度から実施している。観光学科を有する神戸夙川学院大学並びに観光や社会連携事業に熱心な流通科学大学の学生達に、市バスや地下鉄など公共交通機関の利用促進のための企画を提案いただく取組みである。

平成25年度には、通勤、通学、日常の買い物だけでなく、非日常的な市バス利用の促進を目的として、グルメ、ショッピング、観光などのスポットを市バスで周遊できるコース企画を2大学の学生よりそれぞれ提案していただいた。

神戸夙川学院大学の企画「早春のこうべ、山の手ツアー」と銘打った、岡本梅林公園から白鶴美術館、深田池公園などを回るコースについては、広告ポスターの掲示や、大学のホームページで紹介をする等のPRを実施した。

## ■ 八社巡り、重要文化財巡り、酒蔵バス、縁結びバスなど、路線バスを活用した乗客へのサービス

平成26（2014）年には、三宮駅から神戸駅周辺に点在する、一宮から八宮の神社を市バスで巡拝する「八社巡り」のPRを展開。神戸市交通局御朱印帳（日本語、英語、中国語版）を発行した。

平成28（2016）年7月には北区の国指定重要文化財を巡る「北区重要文化財めぐり」を、12月には灘の酒蔵を巡る「酒蔵めぐり」などのPR企画を展開。市バスの営業路線を気軽に周遊していただけるようなコースの案内などを行っている。

平成30（2018）年2月からは、市内の縁結びスポットを紹介したPR企画「恋愛パワースポットを市バスでめぐる」を開始。オリジナルデザインの市バス・地下鉄1日乗車券（縁結び切符）も発売している。

## ■ ボンネットバスの活用

昭和31（1956）年に登場したボンネットバス（こべっこ号）は、昭和47（1972）年に路線バスとしての引退後、様々なイベントで活躍していた。

その後、こべっこ号の老朽化に伴い、平成5（1993）年に中型トラックを改造して後継のボンネットバスとして登場したのがこべっこ2世号。このバスは、すべて手作りで製作されたものである。

当初は、自家用ナンバーで路線営業以外のイベント等で活躍していたが、平成12（2000）年に営業用ナンバーを取得し、臨時の路線営業など多様な活躍ができるようになった。

製造から満12年が経過した平成18（2006）年度には、ディーゼル・エンジンに対する排ガス規制に対応するため、規制をクリアできる圧縮

天然ガス（CNG）エンジンへの改造を行った。

現在は、中央営業所に在籍し、神戸市交通局が主催するイベント等で活躍している。

### 【最近の活動内容】

平成28年11月26日（土）

ボンネットバスで巡る兵庫区・長田区周遊ツアー

平成28年11月27日（日）

新旧ボンネットバス特別展示会

平成29年5月21日（日）

花バスデザインラッピングバスお披露目

平成29年6月～9月の土曜日（10日間）

ボンネットバスで巡る懐かしのお買い物ツアー

平成29年10月8日（日）

ラジオ関西まつり ～ハーバーボンバー～ など

## 4 その他の取組み

### ■ ドライブレコーダーの導入

市バスの安全な運行を推進するため、平成20（2008）年度よりドライブレコーダーの導入を開始し、平成24（2012）年度には委託営業所を含め全営業所で設置を完了した。

前方撮影用、車内撮影用、左側方撮影用と合計3台のカメラ、加速度、ブレーキ、縦G横G情報を計測する各種センサーを設置し、ドライバーの運転したデータ（車速、走行距離、運行時間等）を記録・分析し、グラフ化する機能を搭載している。これにより、車両の走行状況を常時記録し映像や運行データを再現できるようになった。

活用方法として、事故が発生した場合の原因の解析や再発防止に役立てているほか、ヒヤリハット情報の収集及び安全運転教育への活用など、安全に対する取組みを強化することによ

て、一層の安全運行に役立っている。

## ■須磨営業所の統廃合による廃止

須磨営業所は、昭和41（1966）年2月に灘・布引・松原に続く4番目の営業所として須磨電車庫跡地に開設された。昭和46（1971）年3月には市営住宅に併設された全国でも極めてユニークな新事務所が完成した。

平成7（1995）年の阪神・淡路大震災では、管内の須磨区、長田区が甚大な被害を受けた。営業所の運営も大混乱となったが、一日も早い運行の確保に職員一丸となって取り組んだ。

しかし、平成14（2002）年度に策定された「神戸市交通事業 新たな経営計画」の中で、須磨営業所を松原営業所に統合する案が示され、平成17（2005）年3月25日に閉所式が行われた。

営業所閉鎖後の跡地については、民間企業の持つ活力によりこの土地の可能性を最大限に引き出せるよう、平成17年8月に企業提案競技を実施した。

提案募集に対し6社の応募があり、学識経験者や公認会計士等からなる審査委員会で審査が行われた。その結果、食品スーパー事業案が採択され、運営企業に対し20年間の事業用定期借地として貸し付けることとなった。

## ■市バス営業所の管理委託

平成15（2003）年当時、予想を超えた乗客数の減少に加え、平成14（2002）年に実施された国における規制緩和等の動き、さらには本市の財政状況などの要因により、自動車事業が深刻な経営状況に陥ったことから、抜本的な経営改善施策の一つとして市バス営業所の管理委託を行うこととなった。

まず、平成16（2004）年度に有野営業所の運行を神戸交通振興株式会社に委託した。その後、提案競技を行い、平成17（2005）年度から魚崎と松原の2営業所、さらに平成18（2006）年度

からは落合・西神の2営業所の管理委託を実施した。

平成22（2010）年度には、平成21（2009）年度末で契約が終了した有野・魚崎・松原の3営業所について1年契約を延長したうえで、全7営業所のうち落合と西神を加えた5営業所について一括して提案競技を実施した。その後平成25（2013）年5月に阪急バス株式会社に路線移譲を行った有野営業所を除く4営業所について、平成28（2016）年度に提案競技を実施、管理委託を行っている。

さらに、自動車事業の経営健全化を推進するため、平成30（2018）年度には、中央営業所が担当している2系統の一部委託を実施した。受託事業者の施設の一部を活用して新たに中央南営業所を開設し、市バスの特定路線の一部委託という新たな手法による管理委託を開始した。

## ■市バス路線移譲

### (1) 登山バス

平成14（2002）年に実施された国における規制緩和後の自由競争のもと、最小の経費でサービス提供を継続するため、バス事業者にはより弾力的な対応が求められた。こうした状況を踏まえ、先述の「神戸市交通事業 新たな経営計画」に基づき、コスト削減の一環として、当時、民間バス事業者2社と協調運行していた登山バスを、平成16（2004）年4月、民間事業者に移譲した。

### 【移譲路線】

系統	運行区間
26	摩耶ロープウェー山上駅－六甲山牧場－丁字ケ辻－記念碑台－六甲ケーブル山上駅
39	阪急六甲－丁字ケ辻－記念碑台－六甲ケーブル山上駅
40	阪急六甲－丁字ケ辻－六甲山牧場－摩耶ロープウェー山上駅



## (2) 西神地域5路線

西神地域のニュータウン外の路線については、赤字幅が大きく、委託による効果だけでは、十分な収支改善効果が得られないと判断した。これらの路線の多くが、既に民間事業者と共同運行していたこともあり、平成17（2005）年4月より路線を移譲することとした。

西神地域の5路線の移譲は、西神営業所と連携をとりつつ運行されることが望ましい。このため提案競技において、対象路線の運行を条件として付したうえで、西神営業所を受託した民間事業者に路線移譲を行った。

### 【移譲路線】

系統	運行区間
12	大久保駅前－上岩岡－田井－西神中央駅前／五百蔵
13	明石駅前－榎谷－西神中央駅前－寺谷／友清
14	明石駅前－伊川谷連絡所－伊川谷駅－名谷駅前
20	西神中央駅前－桜が丘・秋葉台－押部谷（栄）
57	学園都市駅前－伊川谷駅－神戸学院大学

## (3) 有野等9路線

有野営業所等9路線については、たいへん厳しい経営状況が続いていた。多数の市バス路線を有する市街地等とは異なり、ほかの路線との一体運営による効率化が難しいことなどから、さらなる効率化による路線の維持は困難であった。

そのため、当該地域にバス路線を有する民間事業者が既存路線と一体的な路線の運営を行うことなどにより、一層の効率的な路線の運営が期待できると判断し、平成25（2013）年5月に、民間事業者2社に有野営業所等9路線を移譲した。

### 【移譲路線】

系統	運行区間
60	岡場駅－東有野台
61	神戸駅南口－鈴蘭台
62	有馬中学校前－五社駅－岡場駅－藤原台北町－岡場駅－五社駅－有馬中学校前
63	五社駅前－有野台－五社駅前
67	岡場駅－藤原台南町－岡場駅
68	岡場駅－北神星和台
69	岡場駅－フルーツパーク
150	神戸駅前－しあわせの村－西鈴蘭台駅前
158	谷上駅－しあわせの村

## ■ 評価委員会の取組み

神戸市交通局は、危機的な財政状況を抜本的に改善するため、平成16（2004）年9月に神戸市交通事業の経営改革プラン「レポリユーション2004」を策定したが、その中心施策の一つに「市バス営業所の管理の委託」があった。当該施策の実施の過程において、受託事業者の事業運営を安全・安定運行、サービス水準などの観点から検証、評価するため、平成17（2005）年10月に「市バス営業所管理の受委託に関する評価委員会」が設置された。

受託事業者の実績の評価は、神戸市交通局が当然第一義的に行う立場にあるものの、外部の第三者による評価も併せて行うことが不可欠だと考えられたからである。

この委員会による評価のまとめが平成19（2007）年11月に公表された。同月に神戸市交通事業管理者に行われた報告の中で管理の受委託に関する評価について「一時的なものに終わらせず、恒常的なものとし、絶えず改善・改良を重ねていくことが必要」とされている。

報告を受けた神戸市交通局は、「神戸市バス営業所管理の受委託に関する評価委員会」を常

設の機関として位置付けることとし、制度的に定着をみることとなった。

## 第3節 高速鉄道事業

### 1 安全な地下鉄を目指して

#### ■ 列車非常停止装置の導入

他都市及び神戸市営地下鉄において、ホームからの転落事故が相次いでいた。軌道上への転落事故対策については、既にいろいろな方策が進められてきているが、バリアフリー化に関する研究、取組みが進む中で、可動式ホーム柵（ホームドア）等の設置が最も効果が高いと考えられている。

しかし、たいへん厳しい経営状況が続く中で、ただちに全駅に設置することは困難である。このため、当面の転落防止策として、平成13(2001)年の国通達「プラットホームからの転落事故に

対する安全対策について」に基づき、列車非常停止装置（非常停止押しボタン）を順次全駅に設置した。

西神・山手線各駅における非常停止押しボタンの設置は、平成14（2002）年度に着手、平成22（2010）年12月には全16駅での設置が完了した。

なお、海岸線は、運行本数が1時間当たり10本と少ないため通達による整備を要する路線には該当しないが、開業当初より全駅に非常停止押しボタンを設置している。

非常停止押しボタンが押されると自動的に列車を停止させる仕組みであるが、運転指令所から操作することも可能となっている。



列車非常停止装置

列車非常停止装置設置駅（平成30（2018）年4月現在）

西神・山手線	西神中央	西神南	伊川谷	学園都市	総合運動公園	名谷
合計 80 (84か所)	7	4	4	4	4 (8)	8
	妙法寺	板宿	新長田	長田	上沢	湊川公園
	4	4	4	6	4	4
	大倉山	県庁前	三宮	新神戸		
	4	6	6	7		
海岸線	新長田	駒ヶ林	苅藻	御崎公園	和田岬	中央市場前
合計 41か所	4	4	4	7	3	4
	ハーバーランド	みなと元町	旧居留地・大丸前	三宮・花時計前		
	4	3	4	4		

※（ ）内は、係員用を含んだ数

## ■ ホームドアの設置

近年、鉄道駅のプラットホームにおける視覚障害のある人等の転落事故や列車との接触事故に対する予防対策として、全国的にホームドアの設置が進められている。

市営地下鉄においては、プラットホームからの転落が毎年10数件発生している。プラットホームからの転落対策として、ホーム縁端を警告するための内方線付き点状ブロックや列車非常停止装置等の設置などを実施しているが、プラットホームからの転落の抜本的な対策としては、可動式ホーム柵（ホームドア）の設置が最も効果が高いと考えられる。

国土交通省が平成28（2016）年12月に示した「駅ホームにおける安全性向上のための検討会」中間取りまとめでは、利用者が10万人以上の駅については、原則として令和2（2020）年までに可動式ホーム柵の設置が求められている。まず、この要件に該当する西神・山手線三宮駅において、可動式ホーム柵を設置し平成30（2018）年3月3日に稼動した。

今後も、車両更新と関連するATO等地上設備の更新と併せて実施する予定である。令和4（2022）年度末には車両更新が完了し、令和5（2023）年度には西神・山手線全駅にホームドアを設置する方針である。



三宮駅ホームドア設置状況

## ■ 震災の日の早朝臨時便の運行

阪神・淡路大震災の発生から20年目となる平成27（2015）年1月17日土曜日の早朝、多くの市民が追悼行事に参加できるよう、西神・山手線で臨時列車を運行した。神戸市交通局では初の取組みであった。

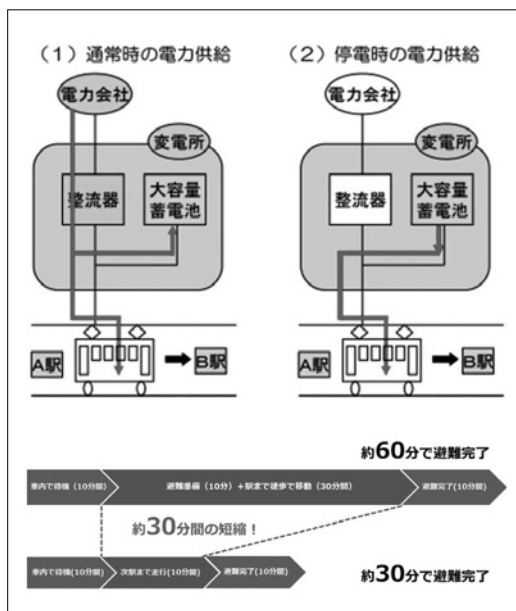
三宮東遊園地で毎年開催される追悼行事では、竹灯籠を並べるなどして多くの市民が集まり、震災が発生した午前5時46分に黙祷が捧げられる。西神・山手線の通常ダイヤでは、始発電車の三宮駅到着が午前5時53分のため黙祷に間に合わず、ほかに並行して走る鉄道もない。

このため、通常ダイヤの始発より1時間10分早い、西神中央駅を午前4時13分に出発、三宮駅に午前4時43分に到着する臨時列車（6両編成・各駅停車）を1本運行し、約900人に利用いただいた。

## ■ 災害対策の取組み

### (1) 海岸線大容量蓄電池整備事業

大規模地震の発生に伴い電力会社が広域停電した場合、走行中の列車は駅到着前に停止し、





火災発生時の様子



初期消火訓練

乗客にはトンネル内を歩いて最寄駅まで避難していただくことになる。海岸線の場合は、地震後の津波の到達により4駅(和田岬・中央市場・ハーバーランド・みなと元町)での浸水が想定されており、一刻も早く駅間より脱出する必要がある。そのため、停電時でも列車が非常走行できるように、列車走行用電力を供給する大容量蓄電池の整備を行い、平成29(2017)年12月に運用を開始した。

この大容量蓄電池の整備により、今までは避難完了までに約60分程度かかると想定していた避難時間を約30分短縮できた。また、トンネル内の徒歩移動が不要となり、より安全に避難誘導できるようになった。

## (2) 火災発生時の初期対応の検証

平成29(2017)年7月30日(日)早朝、西神・山手線 県庁前駅において、改札階とプラットホームとを連絡しているエスカレーターから白煙が上がった。駅係員が初期消火を行ったが鎮火せず、煙の勢いが増してきたため、消防、警察に通報。駅構内すべての利用者等の避難誘導を行った後、駅を一時的に閉鎖、さらに県庁前駅を含む大倉山駅-新神戸駅間の列車の運行を一時休止した。

負傷や健康被害などの影響はなかったが、駅の閉鎖は阪神・淡路大震災以来の出来事である。この火災を受け、すべての駅係員を対象に、「火

災発生時の初期対応」をテーマとして、県庁前駅で発生した火災の様子を記録した防犯カメラ映像を用いて検証を行うとともに、消防設備(防災装置、消化栓や消火器)の取扱い訓練を実施するなど、火災予防と適切な初期対応の徹底に努めることとなった。

## 2 人にやさしいサービスを目指して

### ■ 女性専用車両の導入

神戸市営地下鉄では、女性を標的とした迷惑行為等を未然に防止する観点から、様々な調査・検討を経て、平成14(2002)年12月16日より、女性専用車両を導入した。これは、女性を対象とした痴漢、盗撮、男性酔客等による嫌がらせなどの迷惑行為が、現実としてなくならないことを踏まえ、女性を保護するという観点で導入に至ったものである。



痴漢行為については、朝夕ラッシュ時以外にも発生していることから、西神・山手線及び海岸線とも4号車を、平日休日にかかわらず、終日(始発から終発まで)、女性専用車両の取扱いとした。ただし、イベント開催時や緊急時に

はお客様の安全確保などの見地から、女性専用車両を解除する場合がある。

導入当初は、身体の不自由な方と介助者のどちらかが男性の場合、女性専用車に乗車できるのか等の混乱もあった。

しかし、近畿管区行政評価局が近畿運輸局に対し、『障害を有する男性及び男性介助者等の「女性専用車両」等に起因する身体的・精神的な負担軽減を図るため、必要な対応を行うこと』とあっせんしたことを受け、平成29（2017）年4月1日からは身体の不自由な方や、男性の介助者、及び小学6年生以下の男児にも、より安心して市営地下鉄をご利用いただけるよう、女性専用車両の案内の内容を変更した。

## ■西神・山手線で平日最終電車の延長を含むダイヤ改正の実施

平成18（2006）年12月1日（金）より、市民・利用者のニーズにこたえるため、西神・山手線のダイヤ改正を実施した。

主な改正内容としては

- ・平日の最終列車を32分繰り下げ、最終電車前に東西行各2本を増便。
- ・また、土休日の谷上駅発最終列車を4分繰り下げた。これにより他鉄道から乗り換える旅客の利便の向上を図った。
- ・平日の朝6時台の西神中央駅発新神戸方面行を5本から7本へ増便し、混雑緩和を図った。
- ・平日、朝夕ラッシュ時前後、土・休日の9時台の便数を増やし、混雑緩和を図った。
- ・昼間の停車時間に余裕を持たせ、高齢者や障害者の乗降に配慮した。具体的には、三宮駅等主要駅での停車時間を5秒～10秒延長した。

## ■地下鉄海岸線／「1キロきっぷ」実験

短い区間でも気軽にご利用いただける地下鉄海岸線をめざして、1 km 以下のひと駅間の大

人料金210円を110円に割引（小児・敬老は110円を60円に割引）する地下鉄海岸線「1キロきっぷ」の実証実験を行った。

実績は、前年の同時期との比較では52人（715人 ⇒767

人）、7.3%の増加にとどまった。また、収支改善のためには（半額の料金であるため）利用者が少なくとも倍以上になり、加えて機器改修費用などの投資の回収も必要となることから、「1キロきっぷ」のような短い区間の優遇案では収支を改善するほどの効果が得られないことが明らかになった。

地下鉄海岸線「1キロきっぷ」の内容は以下のとおりである。

### ・実施期間

平成26（2014）年7月1日（火）～9月30日（火）

### ・発売額

大人110円、小児・敬老60円

### ・対象駅間

地下鉄海岸線の1 km 以下のひと駅

※ハーバーランド駅－中央市場前駅（1.4km）、和田岬駅－御崎公園駅（1.1km）は除く。

## ■子育て施策との連携

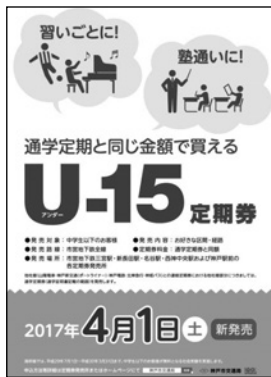
### (1) U-15定期券

わが国が本格的な人口減少時代を迎えるなか、神戸市においては、特に若年代・子育て世代の人口定着が大きな課題として浮かび上がってきた。そのため、市は、若者が結婚、出産の希望を神戸で実現し、安心して子育て、教育ができるよう、結婚・妊娠・出産・子育て・教育に切れ目のない支援等に取り組んでいる。

神戸市交通局は市が進める「安心して子育て



て・教育ができる街づくり」への貢献と地下鉄の利用促進を目的として、平成29(2017)年4月1日より「U-15定期券」の発売を開始した。これは、中学生以下を対象に、従来通学目的に限定していた地



下鉄通学定期券の要件をなくし、塾や習い事など、自由な用途・目的に利用できるものである。料金は、大人(中学生)、小児(小学生以下)の通学定期券とそれぞれ同額であり、中学生以下であれば、誰でも購入することが可能である。

## (2) 地下鉄海岸線中学生以下無料化社会実験

神戸市では、かねてより課題となっていた市街地西部地域の活性化を図るため、夜間人口・昼間人口・交流人口を増やすという方向性に沿って、様々な取組みを進めてきた。

神戸市交通局は、市街地西部地域への若年世代・子育て世代の人口流入・定着を促進する施策の一環として、平成29(2017)年7月1日、地下鉄海岸線で中学生以下の乗車料金を無料化する社会実験を開始した。

本社会実験では、中学生以下でその確認ができる方を対象に、「海岸線中学生以下フリーパス」(磁気カード)を交付し、このフリーパスを持って地下鉄海岸線全線がいつでも、無料で乗り放題となるようにしている。

### ・適用区間・時間帯

地下鉄海岸線「三宮・花時計前駅」から「新長田駅」間 終日(始発から終発まで)

### ・対象者

中学生以下で、



学生証・住民票等、公的機関が発行した書類等によりその確認ができる方

## 3 便利な情報提供・IT化への対応

### ■ SNSを活用した情報発信 (沿線NAVIほか)

沿線で開催されるイベント等を紹介する情報をタイムリーに発信し、市民のお出かけを促進することによって、市バス・地下鉄の乗客増と沿線地域の活性化を図ることを目的として、ホームページ「沿線NAVI」を平成26(2014)年に立ち上げた。ホームページの中には、おすすめスポットやぶらり回遊ルート、市バスの接近情報が分かるバスロケーションシステム、KOBEM乗継検索などの項目を設け、利便性の高い魅力的なサイトになるよう工夫している。

また、ホームページでは表現し尽くせない、よりきめ細かな旬の情報を写真とともに多くの方にお伝えできるよう、平成27(2015)年にはFacebookにページを開設した。このFacebookページでは、神戸市交通局のお知らせや周辺イベントの情報のほか、SNSならではの「海岸線管区駅長が選んだ百押しメニュー」といった情報も掲載している。さらに、平成30(2018)年には、Instagramも開設しており、フォロワーの方にご満足いただけるコンテンツづくりを目指している。

### ■ 地下鉄空間内の携帯環境の整備

平成14(2002)年から駅構内で携帯電話が利用できるよう携帯電話設備の設置工事を開始し、平成14年度には海岸線で、平成16(2004)年度には西神・山手線神戸駅から板宿駅までの各駅構内で携帯電話サービスの提供が始まった。

その後、携帯電話の普及とともに駅間のトン

ネル内での携帯電話サービスの需要が高まったことから、平成26年度よりトンネル内での携帯電話設備設置工事を進め、平成27（2015）年4月17日には西神・山手線新神戸駅から上沢駅の区間で、平成28（2016）年3月31日には海岸線全線と西神・山手線上沢駅から学園都市駅の区間で携帯電話サービスの提供が受けられるようになった。

さらに平成28年9月30日に西神・山手線学園都市駅から西神中央駅までの区間での携帯電話サービスの提供が開始されたことで、神戸市営地下鉄全線で携帯電話の利用が可能となっている。

### ■ デジタルサイネージの設置

デジタルサイネージとは液晶ディスプレイなどに広告や案内情報を表示するもので、従来の看板やポスターを電子化したいわば「電子看板」である。ハードディスクに多数の表示情報を保持することで、多様な映像や動画を展開することができる。

広告媒体としてのデジタルサイネージの利点としては、

- ・動画を表示するとともに音声も出せるため、視聴者の注目度が高まる。
- ・1台の表示機で複数の広告主に対し、時間単位の広告表示枠を提供することができる。
- ・ネットワークを使って表示される広告内容を



西神中央駅 設置イメージ

随時に変更することができる。

- ・ポスターや看板のような印刷物の取替えの手間がかからない。
- 等があり、昨今の広告媒体の主流となっている。

神戸市交通局においては平成24（2012）年10月から名谷駅・西神中央駅に設置したのをはじめとして、平成26（2014）年10月に学園都市駅、平成27（2015）年11月に西神南駅、平成28（2016）年11月に新神戸駅と順次設置を進めている。

## 4 乗客に親しんでもらえる 地下鉄を目指して

### ■ たなばた列車の運行

地下鉄海岸線開業1周年の平成14（2002）年から、毎年7月に運行しており、沿線の保育所・幼稚園の子どもたちに願いごとや夢を書いてもらった短冊や、笹・星を模したたなばた飾りを貼り付けた「おりひめ号」と「ひこぼし号」を西神・山手線及び海岸線で各1編成ずつ運行している。

運行開始の前日には、短冊を作成した保育所・幼稚園の代表の園児に車内の飾り付けをしてもらうなど、地域にも定着してきたイベントで、これまでの16年間で参加した園児は約16,000名にのぼる。

### ■ 海岸線の乗客増加に向けた取組み

神戸を本拠地とするヴィッセル神戸、INAC神戸、神戸製鋼コベルコスティーラーズ等のトップスポーツチームと連携し、地下鉄を利用された方がお得に試合を観戦できるような企画や、クイズラリーなどのイベントを実施している。

また、近年では、人気アニメ「かいけつゾロリ」や「クレヨンしんちゃん」とタイアップしたスタンプラリーや宝探しなど、ご家族で海岸



西神・山手線開業30周年記念事業



線に乗車いただけるようなイベントを実施している。一方、市街地西部活性化の取組みの一つとして、中央卸売市場やランスタ神戸とタイアップし、ポスター・チラシを駅に設置するなどの広報協力をしている。

さらに、平成29（2017）年6月に中央市場前駅にイオンモール神戸南が開業した際には、店舗のメイン入口につながる連絡通路の整備や、交通系ICカードを活用したポイント制度「グリーンスコア」の運用など、店舗と協力しながら乗客増に努めている。

## ■西神・山手線開業30周年記念事業の開催

平成19（2007）年3月13日、神戸市営地下鉄は開業から30年を迎えた。これを記念して、西神・山手線において、記念列車「開業30周年記念タイムトレイン」を運行した。この記念列車には、当時の開業記念列車と同じく1000形1101号編成を充当、列車の前面装飾を、30年前の開業記念列車と同じデザインとした。車内では中吊り広告を撤去し、開業してから30年間の、各年の主な出来事と新聞紙面を展示した。

「30周年記念タイムトレイン」は、通常の定期列車の間を走る臨時列車としてダイヤ設定されており、名谷駅2番線での出発式の後、名谷駅10時54分発新神戸行きから夕方16時13分名谷着まで、営業列車として西神中央－新神戸間を3往復半運行した。

## ■海岸線周年企画（7周年、10周年）

### ●7周年

平成13（2001）年7月7日に開業した海岸線は、7周年と10周年に記念事業を開催した。

7周年記念事業の際には、ハーバーランド駅構内でのNゲージジオラマ展示や、おりひめ号とひこぼし号が御崎公園駅で出会うイベントを開催した。また、これに合わせて、織姫と彦星に扮したお客様が、天の川の上で金の笹飾りと銀の笹飾りを交換するセレモニーも行った。

また「さんちか」では、ゆうちゃんとおぼしー君が共にパレードを実施し、たくさんの買い物客などに祝っていただいた。

### ●10周年

10周年記念事業では、記念列車の出発式や「海岸線10周年まつり」、さんちかでの「市地下鉄海岸線10歳お誕生日パレード」を行った。

セレモニーでクス玉割りや花束贈呈などを行ったあと、10周年記念列車（たなばた列車 おりひめ号）が出発し、7月7日から12月31日まで運行した。期間中は「たなばた列車の10周年バージョンヘッドマーク」や10周年ロゴをあしらった「10周年記念ヘッドマーク」を掲出した。

海岸線10周年まつりでは、「復活！ 夢のおもちゃ箱列車で遊ぼう！」と題して、車両ごとに、プラレールやNゲージ展示、運転台見学な





海岸線 7周年記念事業



海岸線10周年記念事業

どを実施するとともに、電車の側面に絵を描いていただいた。また、御崎公園駅から御崎車両基地（海岸線の車庫）までを往復し、列車内から基地を見学できる「御崎車両基地見学列車」を実施したほか、御崎公園駅構内でのミニステージ開催や、神戸市交通局特別販売ブースを設けて記念カードなどを販売した。

## 5 快適な利用に向けた駅、駅周辺施設や車両等の整備

### ■新神戸連絡通路のリニューアル

新幹線の神戸駅がリニューアルされたのは平成19（2007）年10月のことだが、昭和60（1985）年の開業以来30年以上が経過した地下鉄新神戸駅は老朽化が目立ってきていた。そこで、「デザイン都市」神戸の玄関口に相応しいものとな



新神戸連絡通路リニューアル状況

るよう、最も効果的な箇所に重点をおいてリニューアル工事を行った。

まず、神戸市が『デザイン都市・神戸』推進のための連携協力に関する協定を結んでいる神戸芸術工科大学に、新神戸駅の現状分析、デザイン案の提案を委託し、学生たちの協力も得ながらデザイン検討を行った。次にコンセプトの作成にあたり、市内外に向けて広く意見募集を行い、応募された意見を採り入れながら検討を進めた。その結果、「山から海へ 神戸らしさの展開」をデザインコンセプトに、連絡通路を大きく3つのゾーンに分け、神戸らしい雰囲気を感じられる内装や照明等のデザインとした。

また、北出入口に大型ディスプレイを設置して、神戸の観光や物産をPRする仕掛けづくりや通路に面した店舗のリニューアルもあわせて行い、平成28（2016）年11月に完成した。

### ■新型車両の導入

平成30（2018）年度より、従来車両の老朽化に伴う更新のため、西神・山手線では25年ぶりに新型車両が導入される。新型の6000形車両は、平成27（2015）年度に契約発注を行い、平成28（2016）年度に詳細設計を実施した。平成31（2019）年2月16日、西神中央駅10時7分発谷上行の列車として営業運行を開始しており、令和4（2022）年度にかけて、全車両の更新を計画している。

市民・利用者に新型車両への興味や親しみを持ってもらうため、神戸市交通局100周年記念事業の取組みの一つとして「新型車両デザイン総選挙」を実施した。3つのデザイン案の中から、平成28年度の交通フェスティバル会場及びWEBでの一般投票により、採用するデザインを決定した。

6000形車両は安全性向上、バリアフリー対応・快適性向上、省エネ性能向上を重点項目としており、また、ホームドアとの連動対応やワンマン運転に対応が可能な仕様としている。

主な仕様については次のとおりである。

## (1) 安全性の向上

- ①連結部全箇所に扉を設置、天井部材の耐溶融滴下材料の使用などにより火災対策を強化している。
- ②機器の運転を監視する装置により、機器故障時等の迅速で的確な対応が可能となった。
- ③戸ばさみ事故防止対策として、乗降扉の戸閉装置に、戸閉力を弱める減圧機能を設け、戸ばさみの際に抜けやすくするとともに、検知能力を向上させている。



落ち着いたカラーリングと丸みを帯びたシンプルな形状を多用した上質な室内を目指した。外観で使用しているグリーン系を室内の座席にも取り入れ、西神・山手線＝グリーンを印象付けている。壁には木目や布目等の柄を使用して、親しみがあり人々が集い会話が生まれるような空間としている。座席表皮には千鳥柄を採用し、神戸らしいモダンなイメージも加わっている。大型袖仕切を採用し、立っているお客様と座っているお客様との干渉を避け、快適にご乗車いただけるよう配慮している。



### 車内案内表示器

視線を集めやすい乗降口上部に案内モニターを設置し乗換案内や停車駅情報を4か国語でご案内する。



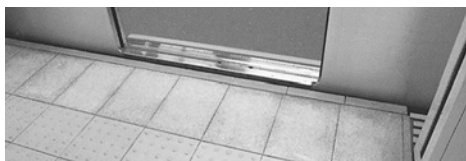
### 乗降口

戸挟み発生時に扉を閉める力を弱くする減圧機能付きの戸閉装置を採用している。乗降口の扉と床にイエローラインを施すことで、引き込みの防止や乗り降り時の注意を促している。



### 仕切扉

全面をガラスにし、見通しを良くしている。ガラスには大人・子供の目線高さに衝突防止の柄を入れている。



### ホームと車両の床面

乗降がスムーズに行えるよう、車両床面高さを下げ、ホームとの段差を緩和している。



### VVVFインバータ制御装置／主電動機

1台の制御装置で誘導電動機4台を一括制御する1C4Mの駆動システムとしており、SiC (Silicon Carbide) を応用した低損失なパワーデバイスを採用することで、装置の小型・軽量化を図るとともに、低損失のフィルタリアクトルも合わせて更なる省エネルギー化を実現する。主電動機は効率的な三相かご形誘導電動機とし省エネルギーを追求している。また、全閉（内扇）形とすることで、塵埃対策と低騒音化を図っている。さらに、軸受を解体せずに交換できるなど、内部構造を最適化することにより保守作業の軽減も図っている。

## (2) バリアフリー対応・快適性向上

- ①現在1編成で2両に設置している車いすスペース・ベビーカースペースを拡大。またその他の車両にフリースペースを設置した。
- ②優先座席を現在の1編成あたり36席から56席に増加させた。
- ③車両内に案内表示装置を設置し、放送装置による音声案内だけでなく、文字や画像による情報提供を充実している。また停車駅案内等の多言語表示を行う。(日、英、中、韓、ひらがな)
- ④吊手、縦型手すりを増設した。
- ⑤車両の床面高さを下げ、ホームとの段差を縮小した。  
※ホーム基準高さとの差 既存車両70mm、新型車両40mm
- ⑥急速暖房機能による、冬期早朝の暖房能力の向上など空調性能を向上させた。

## (3) 省エネ性能の向上

- ①新型機器の導入により、車両の走行に必要な電力を削減した。
- ②照明設備をLED灯とした。

## ■ 駅ナカビジネスの推移

駅ナカビジネスは、地下鉄の開業当初の駅売店から公衆無線LANサービスまで幅広く駅構内のスペースを活用した事業である。

平成18(2006)年、西神南駅売店を従来の対面式からウォークイン形式にリニューアルしたのをはじめ、平成19(2007)年には、新長田駅と妙法寺駅でコンビニエンスストアの出店を発表、翌年開店した。また、平成20(2008)年、西神・山手線三宮駅に「Uラインスイーツステーション」をオープンした。

店舗ばかりでなく、平成21(2009)年5月にゆうちょ銀行のATMを設置したのに続き、平成23(2011)年3月にはセブン銀行のATMを三宮・花時計前駅に設置、その後新神戸、三宮、

新長田、学園都市、西神中央に順次設置した。

また、4月には名谷駅構内でスイーツ専門常設型ワゴンショップを開設し5月には三宮駅にも拡大した。

利用者の利便性のさらなる向上と神戸市交通局収入増の観点から、平成24(2012)年以降は駅売店の運営事業者を公募で決定する方式に改めた。また、平成25(2013)年3月駅構内公衆無線LANサービスを開始し、平成28(2016)年には地下鉄の地下区域全域で携帯通信サービスを開始した。

平成29(2017)年から新たな事業として宅配ロッカーを西神中央駅と西神南駅に設置するなど、輸送サービスだけでなく、時代の要請にあわせて利用者の利便向上と収益拡大を目指し、駅の空間を有効に活用して幅広いサービスを提供している。

## ■ 地下鉄海岸線の事後評価 (H18)

国土交通省の指導により、公共事業を実施した場合、その効率性及び実施過程における透明性の一層の向上を図ることを目的として、事業完了(事業採択を行った区間がすべて供用を開始した時点)後5年が経過した時点で事後評価を行うことになっている。地下鉄海岸線は、平成18(2006)年7月に開業5周年を迎えて「事後評価」を実施し、平成19(2007)年3月に事後評価報告を行った。

地下鉄海岸線の整備計画時から事業評価当時までの社会経済情勢の変化として、阪神・淡路大震災による甚大な被害、事業計画時に比して景気の大きな後退、少子高齢化の進展、モータリゼーションのさらなる進展があげられる。このため、費用便益分析によると地下鉄海岸線事業は、事業効率の発現性が比較的低いものであった。しかし、海岸線は、兵庫区・長田区南部地域のインナーシティ活性化対策として整備され、阪神・淡路大震災後は、インナーシティの

復興促進並びにまちづくりの先導的な役割を担っている。今後、インナーシティ活性化のための総合的・長期的な対策が講じられ、活力と魅力の豊かなインナーシティが実現に向かえば、海岸線の事業効率の向上が見られると考えられる。

開業後の実績及び社会経済情勢に基づく需要予測では、開業後20年目（平成32年度）の輸送人員を1日あたり5.3万人と予測している。これを前提とした採算性（収支）を見ると、全線（地下鉄全体）は償却前経常収支の黒字を維持しているものの、累積資金不足解消には長期間を要する。

一方、地下鉄海岸線事業による効果・影響としては、

- ・インナーシティ再生プロジェクトの始動や実現のペースを加速させ、インナーシティの都市環境の改善と活力向上に一定の寄与をしていること
- ・沿線地域の課題であった公共交通サービスの利便性を改善し、生活・企業活動の行動圏を都心（三宮）や副都心（新長田）まで拡大するなど、同地域の交通課題の解消と交通利便性の向上に貢献したこと
- ・沿線プロジェクトの進捗により発生する都市内交通需要に十分対応しており、道路整備や沿線開発による自動車交通量の増加を最小限に食い止め、道路混雑の緩和に一定の役割を果たすとともに、並行する鉄道の車内混雑緩和にも寄与していること
- ・海岸線利用者の66%が西神・山手線やほかの鉄道路線との乗継利用であり、海岸線は、ほかの鉄道と連携してネットワークを形成し、利用者のルート選択の幅を広げ、路線間の役割分担を適正化する上で大いに貢献しており、また、鉄道ネットワークを多重化し、災害時のリダンダンシー（代替性）向上にも大きな役割を果たしていること

と評価された。

今後の改善措置の必要性として、

- ・今後さらに事業効率を高めていくためには、整備中の沿線プロジェクトの着実な推進と、海岸線を軸とした集中的なまちづくりの推進が必要不可欠であること
  - ・さらなる経費節減と乗客増対策が必要であること
  - ・市の強力な支援が必要であること
  - ・市職員の率先した利用等、不断の地道な取組が必要であること
- とされ、高速鉄道事業の経営の健全化を図るためにも、この評価結果に示されたような各方面での海岸線対策をあらためて検討し、講じていく必要があるとされた。

## 第4節 経営計画

### ◆ 経営改善に関する取組み （～現在に至るまで）

#### ■ 神戸市交通事業 新たな経営計画 （平成14(2002)～18(2006)年度）

##### (1) 策定経緯

昭和40年代以降の市街地の発展と急激なモータリゼーションの進展に対応して、神戸市交通局が都市において供給する公共交通サービスの形態は、路面電車からバス、地下鉄へと変遷してきた。そうした時代の要請に応じた交通事業の確立に要した費用を工面するため、神戸市交通局は、第1次・第2次の財政再建計画を策定し、着実に取り組んできた。しかし、モータリゼーションの一層の拡大、バブル経済崩壊以降の不況の長期化・深刻化、週休2日制の定着、少子・超高齢化社会の到来などにより、自動車

事業の乗客数は、震災による影響を除いて平成5（1993）年度より減少傾向に歯止めがかからない状態が続いている。また、高速鉄道事業の乗客数についても、震災までは伸び率が低下しながらも増加していたが、平成8（1996）年度より減少に転じた。

このような状況を踏まえ、平成11（1999）年4月に「神戸市交通事業経営健全化計画」を策定し、着実に取り組んだにもかかわらず、デフレ経済の進行は予想を超えたさらなる乗客減少を招き、健全化計画の目標である平成13（2001）年度の収支均衡を達成することができず、交通事業の経営は危機的な状況に陥った。そこで、事業の再構築を図り、神戸市における公営交通事業としての役割を引き続き果たしていくことを目的として、平成14（2002）年度を初年度とする「新たな経営計画」を策定した。

### (2) 計画期間と財政目標

計画期間：平成14～18年度

財政目標：＜自動車事業＞平成18年度 単年度収支均衡を図る。

＜高速鉄道事業＞西神・山手線の早期の単年度収支均衡を達成し、収支の改善を図る。

### (3) 主な取組み

#### お客様サービスの向上及び乗客誘致対策の強化

- ・市バス定期券の全線共通化
- ・地下鉄ゾーン定期券の範囲拡大
- ・CNGバスの導入
- ・沿線施設との連携（エコショッピング制度）

#### 財務基盤の確立

- ・公共助成の維持
- ・駅構内のコンビニエンスストアの設置など、関連事業の積極的な展開

#### 経営の効率化

- ・退職者不補充と嘱託化の拡大

- ・労働生産性の向上
- ・勤務条件の見直し
- ・給与の削減（全市で実施）
- ・（社）神戸市交通局公済会、神戸交通振興（株）の統合

#### 柔軟でスピーディーな運営

- ・登山バスの民間事業者への移譲
- ・有野営業所の管理委託

## ■神戸市交通事業の経営改革プラン 《レボリューション2004》 (平成16(2004)～18(2006)年度)

### (1) 策定経緯

全国的な公共交通利用者の減少に歯止めがかからず市内の公共輸送機関輸送人員も減少が続くなか、「新たな経営計画」に基づき、お客様重視のサービスの展開や乗客誘致対策の強化に努めたが、計画で見込んでいた乗客数の目標値の達成は困難な状況となり、財政状況の悪化はより一層深刻な事態となっていた。さらに、神戸市の財政が極めて深刻な状況に直面していたうえ、交通事業基金も枯渇するなど資金調達も極めて深刻な状況となっていた。

このような状況の中で、まず公営企業として経営が安定的に継続していけるよう企業体質を改善し、コスト削減を徹底して行うこと、市民本位、顧客重視の立場に立って的確なニーズの把握と迅速な対応に努めること、福祉、環境、まちづくりとの連携という公営交通でしかできない施策の充実を図ること、を基本方針に掲げ、平成16年9月に「神戸市営交通事業の経営改革プラン《レボリューション2004》」を策定した。

### (2) 計画期間と財政目標

計画期間：平成16～18年度

財政目標：＜自動車事業＞平成18（2006）年度の単年度収支均衡を図る。

＜高速鉄道事業＞平成18（2006）年

度に海岸線のランニング収支の赤字を全線で解消するとともに、国、一般会計に対し制度改正等の要望を粘り強く行っていく。

### (3) 主な取組み

#### サービス向上、乗客増対策の展開

- ・地下鉄へのICカードシステムの導入
- ・地域密着型バス路線の拡大
- ・地下鉄西神・山手線の増便、最終列車の繰り下げ

#### 資産の活用

- ・駅構内店舗の拡充
- ・資産の売却、流動化

#### 効率的経営の展開

- ・営業所の管理委託の拡大（有野、魚崎、松原、落合、西神）
- ・西神地域での一部路線移譲
- ・海岸線駅業務の委託拡大
- ・地下鉄保守業務の見直し、外注拡大
- ・特殊勤務手当の見直し、市長部局等への配置転換

### ■ 神戸市営交通ステップ・アップ プラン (平成19(2007)～22(2010)年度)

#### (1) 策定経緯

「神戸市交通事業の経営改革プラン《レボリューション2004》」では、市営交通の存続を懸けて、職員の大幅な削減も行いながら、管理委託の拡大をはじめ収支構造の転換を図るための抜本的な経営改革に取り組んだその結果、大幅に収支を改善することができた。

一方、本格的な少子高齢社会の到来など、公共交通・公営交通を取り巻く社会経済情勢は変化し続けており、その変化に対応しながら、神戸市営交通に求められている役割に着実にこたえていくための経営計画として、「神戸市営交通ステップ・アップ プラン」を策定した。

### (2) 計画期間と財政目標

計画期間：平成19～22年度

財政目標：＜自動車事業＞累積損失の縮小

＜高速鉄道事業＞平成22年度の営業収支の均衡

### (3) 主な取組み

#### 時代のニーズに対応したサービスの向上

- ・地下鉄IC定期券サービスの開始、市バスICカードシステムの導入
- ・ノンステップバスの導入推進
- ・地下鉄駅のバリアフリー化の推進

#### 快適な環境の将来への継承

- ・モビリティ・マネジメントの実施
- ・エコドライブの推進

#### まちのモビリティ・回遊性の向上

- ・利用者ニーズに対応した路線・ダイヤの設定
- ・バス停環境の改善

#### 市営交通の根幹を支える経営基盤の強化

- ・給与構造の見直し、特殊勤務手当の原則廃止
- ・多様な雇用形態の導入（80%水準での新規採用、再任用、派遣）
- ・駅施設等を活用した関連事業の展開

### ■ 神戸市営交通事業経営計画2015 (平成23(2011)～27(2015)年度)

#### (1) 策定経緯

これまでの経営計画に基づき経営改善に取り組んできた結果、一定の成果が得られ、交通事業審議会答申で「これからもあらゆる経営改善努力を怠らないならば改善型地方公営企業として存立しうる」とされるにいたった。しかし、リーマンショック以降の景気低迷に加え、少子高齢化の進展により市バス・地下鉄の乗車人員は減少傾向にあり、自動車事業については平成27年度の経営健全化団体への転落が、高速鉄道事業についても多額の赤字決算が見込まれていた。

このような状況の中、厳しい経営環境の中で

も安定した経営を維持するため、「神戸市営交通事業経営計画2015」を策定し、さらなる経営改善に取り組んだ。

## (2) 計画期間と財政目標

計画期間：平成23～27年度

財政目標：＜自動車事業＞単年度黒字の確保と  
累積資金不足の縮小  
＜高速鉄道事業＞営業収支の黒字確保と  
海岸線ランニング収支の均衡

## (3) 主な取組み

### 安全で安心な「市民の足」の確保

- ・市バス全車両へのドライブレコーダーの設置
- ・地下鉄における交通系ICカード全国相互利用サービスの導入
- ・市バスIC定期券サービスの開始
- ・ICカードによる市バス乗継割引の実施

### 人と環境にやさしい市バス・地下鉄

- ・市バス車両低床化100%達成
- ・地下鉄駅のバリアフリー化の推進

### 安定した経営を維持するためのさらなる経営改善

- ・職員定数の削減
- ・民間委託の推進（市バス車検業務の一部委託等）
- ・市バス車両更新期間の延長
- ・遊休資産の活用

## ■神戸市営交通事業経営計画2020 (平成28(2016)～平成32(2020)年度)

### (1) 策定経緯

経営環境の変化に適切に対応しながら、数次にわたる経営計画を策定し経営改善に取り組んできた結果、自動車事業は平成18（2006）年度から24（2012）年度まで7年続けて単年度黒字を計上、高速鉄道事業では平成25（2013）年度に両線あわせて初めての黒字を計上するなど、

一定の成果をあげることができた。しかし、福祉乗車制度の見直しなどにより、自動車事業は平成25・26年度と2年連続で赤字となり、高速鉄道事業では営業収支は黒字であるものの西神・山手線の黒字で海岸線の赤字を補填している状況であり、依然多額の債務・累積欠損金を抱えていた。収支見直しを見ると、自動車事業では、有料乗車人員が減少傾向にあり、何らかの対策を講じなければ平成28年度に経営健全化団体に陥る恐れがある。高速鉄道事業では、海岸線の有料乗車人員こそ増加していく見込みにあるものの、西神・山手線では有料乗車人員の減少が見込まれるうえ、車両・設備の大規模な更新を控えており、このままでは減価償却費の増高等により平成32（2020）年度に赤字となる見込みにあった。

こうした厳しい状況の中で、これからも市民に安全で信頼できるサービスを提供するため、これを支えるしっかりとした経営基盤の確立に取り組むことを目的として、「神戸市営交通事業経営計画2020」を策定した。

### (2) 計画期間と財政目標

計画期間：平成28～平成32年度

財政目標：＜自動車事業＞単年度収支の均衡  
累積資金不足額の縮減  
＜高速鉄道事業＞累積欠損金の縮減  
海岸線ランニング収支の均衡に向けた収支改善

### (3) 主な取組み

#### 安全でお客様に信頼される公共交通を目指す

- ・西神・山手線新型車両の導入
- ・西神・山手線全駅でのホームドア設置に向けた取組み
- ・ICOCAによるIC定期券の導入
- ・バスロケーションシステムの導入

## 公共交通として神戸のまちづくりや地域社会に貢献する

- ・新神戸駅における新幹線との連絡通路のリニューアル
- ・「U-15定期券」の導入
- ・地下鉄海岸線中学生以下無料化社会実験の実施

## 「市民の足」であり続けるために、経営基盤を強化する

- ・市営交通100周年記念事業の実施
- ・勤務の効率化などによる時間外勤務手当等の縮減
- ・事務事業の見直しによる職員定数の見直し

## 第5節 市営交通100周年

神戸市営交通は、大正6（1917）年に神戸市電気局として設置され、市営として発電、配電及び市街地路面電車事業を開始して以来、平成29（2017）年8月1日に100周年を迎えた。神戸市交通局では、ご利用・ご支援いただいた方への感謝の気持ちを発信するとともに、交通事業に対する理解と関心を深めていただき、市バス・地下鉄の利用促進につなげるため、3月より運行している市電デザイン列車を皮切りに、神戸市交通局ならではの特別企画を実施した。

### 【具体的な事業】

#### <プレイベント>

平成28（2016）年

- 2月15日（月）～4月15日（金）  
100周年記念事業に関する企画アイデア募集を実施
- 10月16日（日）～23日（日）  
新型車両デザイン総選挙

- 11月26日（土）  
ボンネットバス（こべっこⅡ世号）で巡る兵庫区・長田区周遊ツアー

- 11月27日（日）  
新旧ボンネットバス特別展示会in市バス車両工場

#### <100周年記念事業>

平成29（2017）年

- 3月5日（日）  
市電デザイン列車特別試乗会
- 5月20日（土）  
そごう西神店前でのボンネットバス（こべっこⅡ世号）の展示
- 5月20日（土）  
各区神戸まつりでの市営交通100周年PR
- 5月21日（日）  
花バスデザインラッピングバスお披露目@神戸まつり
- 5月28日（日）  
大丸須磨店での花バスデザインラッピングバスの展示
- 6月3日（土）～9月2日（土）  
ボンネットバスで巡る懐かしのお買い物ツアー
- 6月20日（火）～8月18日（金）  
小学生絵画・中学生作文コンクール
- 7月6日（木）～8月16日（水）  
神戸花時計の図柄が神戸市交通局の局章に
- 8月1日（火）  
100周年記念グッズ発売開始
- 8月1日（火）～6日（日）  
神戸市営交通100周年懐かしの写真パネル展
- 8月1日（火）～31日（木）  
花時計ギャラリー・アドウィンドーでの展示
- 9月23日（土・祝）  
湊川公園（手しごと市）でのボンネットバス（こべっこⅡ世号）展示
- 9月24日（日）  
交通フェスティバル2017 in 名谷車両基地





新型車両デザイン総選挙



ボンネットバス（こべっこⅡ世号）で巡るツアー

～B-FREE～

記念式典

小学生絵画・中学生作文コンクール表彰式  
鉄道コレクション発売

○10月21日（土）

御崎車両基地見学ツアー

○11月4日（土）

100周年クイズ王決定戦

○11月12日（日）

市バス車両工場フェスティバル

○12月2日（土）

車両連結及び軌道内施設見学会

## ■100周年記念事業に関する 企画アイデア募集

4つのテーマ（「名谷車両基地を活用した企画」、「御崎車両基地を活用した企画」、「市営交通100周年記念グッズ・カードに関する企画」、「その他市営交通と関係のある企画」）に応じて企画を募集し、2か月間で427名から、合計573件もの多くの応募があった。

## ■新型車両デザイン総選挙

名谷車両基地において開催した「交通フェスティバル2016 in 名谷車両基地～B-FREE～」及びWEB（神戸市交通局沿線NAVI）で投票を受け付けた。予め選定した3つの案の中から、最も票を集めた次のデザインを新型車両に採用

することを決定した。

・投票日

会場：平成28年10月16日（日）

WEB：平成28年10月17日（月）～23日（日）

・投票総数 8,001票（会場・WEB合計）

うち採用案3,102票



## ■ボンネットバス（こべっこⅡ世号）で 巡る兵庫区・長田区周遊ツアー

100周年のイベントとして、懐かしのボンネットバス「こべっこⅡ世号」を特別運行し、長田区・兵庫区を巡るツアーを開催した。

当日は、御崎Uビルを出発し、新長田の鉄人28号の前まで行く1周約50分のコースで、約600名の応募をいただき、その中から当選された約80名の参加者と、兵庫区・長田区をめぐる。



新旧ボンネットバス特別展示会



市電デザイン列車特別試乗会

- ・日程 平成28年11月26日（土）
- ・コース  
御崎Uビル（集合）→清盛塚→兵庫大仏→  
新長田鉄人28号（解散）
- ・参加者数 約80名

### ■新旧ボンネットバス特別展示会

市バス車両工場に保管されている初代ボンネットバス「こべっこ号」と、イベント等で活躍中の2代目ボンネットバス「こべっこⅡ世号」を並べて展示する特別展示会を市バス車両工場で開催した。当日は、神戸市交通局の貴重な写真等の閲覧コーナーの設置や、市バス車両工場の部品等の展示をあわせて行った。

- ・日時 平成28年11月27日（日）10時から15時
- ・場所 市バス車両工場
- ・参加者数 約100名

### ■市電デザイン列車特別試乗会

市営交通100周年特別企画の第1弾及び地下鉄開業40周年を記念して、特別試乗会を開催した。

大正8（1919）年に最初に製造した市電をイメージした小豆色の車体と、昭和10（1935）年に製造され、東洋一の市電と称された「700形ロマンス・カー」をイメージしたカラーリングを施した車両（3000形）に乗りいただいた。写真撮影もできたこともあり、100名の募集に対

し、約1,300名もの応募をいただいた。

特別試乗会の後、平成29（2017）年3月13日から通常運行を行った。

- ・日時 平成29年3月5日（日）10時から15時
- ・場所 名谷車両基地
- ・参加者数 約100名

### ■ふるさと納税制度の活用による寄付の受付

平成29（2017）年4月3日から、神戸市営交通100周年記念事業に対する寄付の受付を開始した（ふるさとKOBE寄付金制度）。返礼品としては、(1)1～3万円未満については市バス・地下鉄共通NEW Uラインカードと平成30年秋頃に実施予定の新型車両試乗会の参加券のセット、(2)3万円以上の寄付については、鉄道コレクション（1000形車両・3両セット）と平成30年秋頃に実施予定の新型車両試乗会の参加券のセットを設けた。

136名の方から193件、約467万円の寄付をいただいた。

### ■神戸市各区のまつりでの100周年PR

5月20日に行われた各区のまつりに神戸市交通局のブースを出展し、なつかしの写真パネル展示と100周年記念グッズが当たる抽選会を実施した。地域に密着した身近なイベントである各区のまつりに神戸市交通局職員が出向くこと



花バスデザインラッピングバスお披露目



ボンネットバスで巡る懐かしのお買物ツアー

で、市営交通100周年をPRにあわせて、日ごろ市バス・地下鉄を利用いただいていることへの感謝の気持ちをお伝えする機会となった。

### ■花バスデザインラッピングバスお披露目

昭和50（1975）年開催の第5回神戸まつりに華々しく登場した5両の「花バス」のうち、1号車「太陽号」のデザインをモチーフに「花バスデザインラッピングバス」を製作した。

神戸まつりで、花飾りをつけたボンネットバスと一緒に披露目された後、ラッピングバスは翌5月22日から12月まで、90・92系統で営業運行した。

- ・日程 平成29年5月21日（日）
- ・場所 神戸まつりパレード

### ■ボンネットバスで巡る懐かしのお買物ツアー

平成28（2016）年度に実施し、好評だったボンネットバスツアーを引き続き開催した。兵庫区・長田区にある昔ながらの商店街や神社等のスポットを、ボンネットバス（こべっこⅡ世号）で巡るツアーとして実施した。

神戸市在住の方で各区限定のツアー日や市内・市外限らず応募できる日など、6月から9月にわたり合計で10日間開催し、1日あたりの乗車人数は約30名のところ、全体で約1,400名もの応募があった。

募集にあたっては、実施日ごとに応募者の在住区を限定したり、市外の方にも応募いただける日を設けるなど工夫した。

- ・日程  
平成29年6月3日（土）、6月10日（土）、6月17日（土）、7月1日（土）、7月8日（土）、7月15日（土）、8月5日（土）、8月19日（土）、8月26日（土）、9月2日（土）
- ・コース  
御崎Uビル（集合）→兵庫大仏→兵庫津歴史館・岡方倶楽部→神戸新鮮市場→新長田鉄人広場（解散）
- ・参加者数 約280名

### ■“未来の市バス・地下鉄”小学生絵画コンクール、「誰もが安全・安心に乗車できる市バス・地下鉄」中学生作文コンクール

将来の神戸を担う子どもたちに交通事業への理解・関心を深めてもらうため、市内在住・在学の小学生を対象に“未来の市バス・地下鉄”をテーマにした絵画コンクールを実施した。また、市内在住・在学の中学生を対象に“誰もが安全・安心に乗車できる市バス・地下鉄”をテーマにした作文コンクールを実施した。6月20日～8月18日まで作品募集を行い、絵画87点、作文26点の応募のうち最優秀・優秀作品・佳作を選定した。最優秀・優秀作品については交通



小学生絵画コンクール・中学生作文コンクール表彰者



神戸花時計の図柄が交通局の局章に

フェスティバルで展示・表彰したほか、表彰者には地下鉄西神・山手線名谷駅～西神中央駅間での運転台乗車体験に参加していただいた。

### ■ 神戸花時計の図柄が 神戸市交通局の局章に

神戸市役所北側にある花時計が神戸市営交通100周年を記念して「交通局の局章」となった。

#### ・ 期間

平成29年7月6日（木）～8月16日（水）

#### ・ 使用花苗

タマリユウ（濃緑）：600株、シロタエギク（白）：2,400株 合計：3,000株

### ■ 100周年記念パンフレット 及び記念動画の作成

神戸市営交通100周年の周知・PR事業の一環



神戸市営交通100周年PR動画

として、神戸市営交通100年の歩みを写真や年表を使って紹介するパンフレット及び記念動画を作成した。動画のBGMには地下鉄沿線出身のデュオ「にこいち」に提供いただいた楽曲を使用した。

### ■ 8月1日に向けた周知・PR

#### ・ 地下鉄駅やバスターミナルでのPR

7月21日（金）から8月21日（月）にかけて、地下鉄西神・山手線三宮駅で、柱巻きや駅構内の壁面などを活用し、100年間の歩みや歴代の市電・市バス車両などの写真を掲出した。また、地下鉄全駅と市バス主要バスターミナルで、市営交通100周年と神戸開港150年のロゴを用いたのぼりを掲出し、併せてPRを行った。

#### ・ 地下鉄での車内放送及び駅・バスターミナルでの職員によるPR

7月25日から8月6日までの間、地下鉄車内で100周年をお知らせするアナウンスを実施した。8月1日当日は、西神・山手線三宮駅など主要駅やバスターミナルで、職員自らが、感謝の気持ちを伝えるべく、100周年オリジナルポケットティッシュや記念シールの配布を行った。

### ■ 100周年記念グッズ発売

市営交通が100周年を迎えた8月1日より、「100周年記念NEW Uラインカード（特別パッケージ）」を販売した。大好評で用意した100セ



懐かしの写真パネル展



交通フェスティバル2017 in 名谷基地

ットはその日のうちに売り切れた。

・ 発売日

平成29年 8月1日 (火) ※限定100セット

・ 内容物

NEW Uラインカード3,000円(利用額3,200円)

神戸市営交通100周年×神戸開港150年記念タオル

バス停型うちわ

100周年記念パンフレット

「神戸市営交通100年の歩み」

100周年記念トートバッグ

100周年記念ポストカード

・ 発売価格 3,000円

■ 神戸市営交通100周年  
懐かしの写真パネル展

市営交通100周年を迎えた8月1日から6日まで、市役所の市民ギャラリーで「市営交通100周年懐かしの写真パネル展」を開催した。初日のオープニングセレモニーには100周年関連商品を製作した民間事業者のオリジナル商品を展示するとともに、商品贈呈式などを行った。期間中は夏休みを利用した家族連れや市電当時を知る方など、6日間合計で約2,000名もの方にご来場いただき賑わった。

・ 期間

平成29年 8月1日 (火) ～8月6日 (日)

・ 場所 市役所 1号館 2階市民ギャラリー

■ 花時計ギャラリー・  
アドウィンドーへの展示

Santicaから市役所につながる通路にある、“花時計ギャラリー”と“アドウィンドー”に市営交通100周年をPRする展示を行った。

・ 期間

花時計ギャラリー：

平成29年 7月27日 (木) ～8月2日 (水)

アドウィンドー：

平成29年 8月1日 (火) ～8月31日 (木)

■ 交通フェスティバル2017  
in 名谷車両基地～B-FREE～

鉄道の日(10月14日)を記念して、毎年「交通フェスティバル」を開催しているが、市営交通100周年記念事業のメインイベントとして位置づけ、企画内容を充実させて開催した。100周年記念セレモニーには、地元出身のデュオ「にこいち」ほか、鉄道ファンとして有名なタレントの齊藤雪乃さんに出演いただき、神戸市交通局職員とのトークセッションなどを行った。そのほか、記念式典や小学生絵画コンクール、中学生作文コンクールの表彰式を行った。

100周年特別企画として、名谷駅から名谷車両基地まで「100周年記念特別便」を運行、車内では齊藤さんに車掌を務めていただいた。会場では100周年のヘッドマークをつけた車両が



御崎車両基地見学ツアー



クイズ王決定戦

並んだ「神戸市営地下鉄・北神急行の車両写真撮影会」、模型やイラスト、写真など、貴重な展示を行った「鉄道ファンによる自慢のコレクション展示会」が好評だった。

神戸市交通局では初めての「鉄道コレクション」も販売をしたこともあり、グッズ販売には長蛇の列ができた。

- ・日時 平成29年9月24日（日）10時から15時
- ・場所 名谷車両基地
- ・来場者数 約12,000名

#### イベント応募状況詳細

イベント名	応募者数	参加者数
100周年記念特別便の運行	891名	100組 190名
市営地下鉄・北神急行車両写真撮影会	127名	20名
検車庫ピット見学ツアー	296名	50名
地下鉄運転シミュレーター体験	182名	90名



#### ■ 御崎車両基地見学ツアー

御崎公園の地下に位置し、海岸線の車両の各種点検を行っている「神戸市交通局御崎車両基地」の見学ツアーを開催した。

基地内の見学だけでなく、洗車体験やクレーンによる車体吊り上げの模様などを見学してもらった。100名の参加者募集に対し約1,050名もの応募をいただいた。

- ・日程 平成29年10月21日（土）
- ・場所 御崎車両基地
- ・参加者数 約100名

#### ■ 市営交通100周年クイズ王決定戦

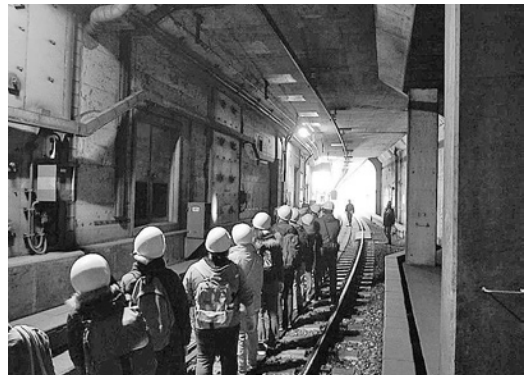
神戸市交通局では初めて、電車車内を使った「クイズ大会」を開催した。

予選は西神・山手線の車内、決勝は特別MCにタレントの齊藤雪乃さんを迎え、西神中央駅前のプレンティ広場で開催した。途中、雨に見舞われるなどハプニングもあったが、無事に初代クイズ王が決定した。

- ・日時 平成29年11月4日（土）9時30分から13時頃
- ・場所 【予選】市営地下鉄西神・山手線「市営交通100周年クイズ王決定戦」特別便  
【決勝】プレンティ広場
- ・参加者数 約120名



市バス車両工場フェスティバル



車両連結及び軌道内施設見学会

## ■市バス車両工場フェスティバル

平成2（1990）年に神戸市西区室谷のハイテクパークにある市バス車両工場を公開するイベント「市バス車両工場フェスティバル～車両工場ってなんだろう～」を開催した。車両工場内では、神戸市バスの整備や車両検査装置の見学のほか、懐かしのボンネットバス特別運行、お子様向けのミニバス運行やゲームコーナーなど各種イベントを行った。

ミニバスは神戸市交通局「ミニバス・プロジェクトチーム」の手作りで、子どもたちにも大人気であった。普段は一般の方が立ち入ることのできない市バス車両工場をハイテクパークに移転後、初めて公開する機会ということで約1,200名もの参加をいただき大盛況となった。

- ・日時 平成29年11月12日（日）10時から15時
- ・場所 市バス車両工場
- ・来場者数 約1,200名

## ■車両連結及び軌道内施設見学会

営業運行が終了して、始発までの約5時間、緊急時しか実施しない車両同士の連結や普段は公開していない線路内各施設を見学していただいた。営業区間を利用したイベントとあって深夜にもかかわらず、関東や四国等の遠方からも含め約500名もの応募があるなど、大きな反響があった。

名谷駅で地下鉄開業当時の記録映像を鑑賞した後、板宿駅では車両が故障したことを想定した車両連結を行い、12両編成で新長田駅まで走行した。県庁前駅から三宮駅までは軌道内を歩いていただくなど、地下鉄の「裏側」を数多く見学していただいた。

- ・日時  
平成29年12月2日（土）深夜24時から  
12月3日（日）早朝5時まで
- ・場所  
神戸市営地下鉄西神・山手線「名谷駅」から「三宮駅」間
- ・参加者数 80名



# 保守車両(主なもの)



電気作業車 堀川工機 WD-H15CTA



電気検測車 松山重車両工業 MS153



架線作業車 松山重車両工業 MS217



軌道検測車 マティサ MPV-8



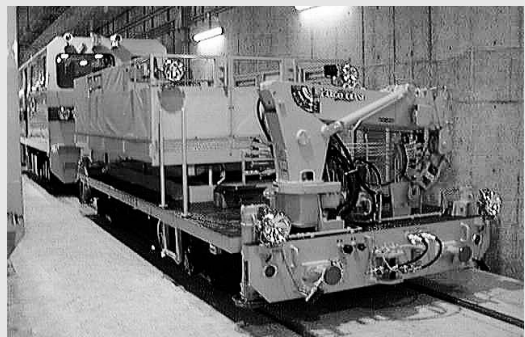
軌道モーターカー 松山重車両工業 MR839と作業用トロリー



架線作業車 堀川工機 BD-H23TA



電気検測車 堀川工機 WD-H15EIA



高所作業台車 堀川工機 TST-6

C O L U M N